

講 義 要 綱

(S Y L L A B U S)

秋田県立衛生看護学院 看護科

科学的思考の基盤【哲 学】

担当教員	鈴木 祐丞	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 ・哲学・倫理的問題のいくつかについて、論点を整理し理解した上で、それぞれの問題について自分はどのように向き合うか、教員(鈴木)や他の受講生との対話などを通じて、自分自身の考えを形成する。			
授業の形式 講義と対話(クラス全体での討議、グループディスカッション)を織り交ぜながら進める。			
成績評価の基準等 ・平常点(受講態度、授業内レポートの内容、出席状況、対話への貢献度など)80% ・中間レポート 20%			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
	適宜配布、紹介する。	

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容
第1回	授業についての説明/哲学(倫理学)とは何か 人間にとって倫理とは何か(1)	
第2回	人間にとって倫理とは何か(2) 「骨髄バンクにドナー登録すべきか」をめぐって	
第3回	人間にとって倫理とは何か(3) なぜ人は倫理的に行為するのか	
第4回	生命倫理の諸問題(1) (新型)出生前診断と選択的人工妊娠中絶	
第5回	生命倫理の諸問題(2)(新型)出生前診断と、 選択的人工妊娠中絶 (つづき)	
第6回	生命倫理の諸問題(3)安楽死	
第7回	生命倫理の諸問題(4)安楽死(つづき)	
第8回	存在肯定の哲学(1)導入	
第9回	存在肯定の哲学(2)ホネットの承認論	
第10回	存在肯定の哲学(3)承認と働くこと	
第11回	存在肯定の哲学(4)人生の意味	
第12回	存在肯定の哲学(5)人間と宗教	
第13回	存在肯定の哲学(6)ニヒリズムと現代	
第14回	存在肯定の哲学(7)人間と言語	
第15回	存在肯定の哲学(8)存在肯定の問いの解消？	
修了試験		

学生へのメッセージ 試験の代わりに、レポート(関心のある倫理問題を一つ取り上げ、問題の概要を説明し論点を整理した上で、自分の考えを論じる)を作成してもらう予定です。

科学的思考の基盤【教 育 学】

担当教員	保坂 和貴	所 属	秋田大学教育文化学部 こども発達コース
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的: これまで教育学が培ってきた理論枠組みや考え方を深く理解することによって、現代の教育が抱える諸問題に対して、自分なりの答えを導き出せるようになることを目指します。			
授業の形式: 講義、ワークショップ(グループ学習)、DVD視聴等			
成績評価の基準等: 試験と各授業の課題の評価を合算します。			

【教科書・参考図書】

教科書: 使用しない 必要なときに適宜資料を配付します。

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	「教育」は何のためにあるのか？		配付資料
第2回	「学校」とはどういう場所なのか？		配付資料
第3回	「先生」とは誰なのか？		配付資料
第4回	「子ども」とはどのような存在か？		配付資料
第5回	人はどのように学ぶのか？		配付資料
第6回	人はどのように育つのか？		配付資料
第7回	学ぶことと身体とはどんな関係があるのか？		配付資料
第8回	学ぶことと道具とはどんな関係があるのか？		配付資料
第9回	人はなぜ遊ぶのか？		配付資料
第10回	未来の社会に求められる資質とは？		配付資料
修 了 試 験			

学生へのメッセージ: 「教育」は誰もが受けた経験があるからこそ、考え易いものでもあり、かつ誤解しやすいものでもあります。ワークショップ形式を取り入れながら、身体を通して「教育」を考え直す機会にしたいと思います。

科学的思考の基盤【情報科学論】

担当教員	小峰 正史 深川 紀子	所 属	秋田県立大学 平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 情報科学の基礎について講義するとともに、情報に関する倫理、セキュリティなどについて学ぶ。			
授業の形式 講義形式で行う。基本的にプレゼンテーション資料を用いて行い、あわせて毎回講義資料を配付する。また、特定のテーマに関してグループディスカッションを行う。			
成績評価の基準等 出席とレポートで評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
	毎回講義資料を配付する。	

【授業計画】

授業回数	履修主題・履修内容
第1回	コンピュータ発達の歴史とハードウェアについて
第2回	オペレーティング・システム(OS)とソフトウェア
第3回	デジタルデータとは
第4回	ネットワーク:基礎知識
第5回	ネットワーク:電子メールシステムの仕組み
第6回	ネットワーク:Web ページ・SNS 等の仕組み
第7回	ネットワーク:ネットワーク利用の注意点
第8回	グループディスカッション「情報教育のあり方について」
第9回	セキュリティ:基礎知識
第10回	セキュリティ:コンピュータ・ウイルス対策
第11回	セキュリティ:個人情報保護
第12回	情報化社会の問題点 ネット犯罪の実態
第13回	情報化社会の問題点 ネット依存症?
第14回	グループディスカッション 「ネット依存の実態について」
第15回	看護における情報システムの活用:医療情報システム・電子カルテの活用
修了試験	

学生へメッセージ 皆さんにとって、コンピュータは「ツール」であり、本講義の内容を理解しなくても充分使いこなすことができるでしょう。しかし、本講義の内容を理解することにより、情報倫理やセキュリティに関する意識を向上させ、コンピュータ関係のトラブルにある程度自力で対応できるようになってもらいたいと考えています。そのような意識で受講してください。

科学的思考の基盤【情報リテラシー】

担当教員	陳 国躍	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 情報の概念、情報収集・分析の方法、医療におけるコンピュータの活用とその実態を学び、医療情報について理解する。			
授業の形式	コンピュータを利用した実習		
成績評価の基準等	出席、課題		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	医療系・看護系のための情報リテラシー	東京図書

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス、Windowsの基本操作		①
第2回	Wordによる文書作成1		①
第3回	Wordによる文書作成2		①
第4回	表の作成		①
第5回	図形描画		①
第6回	演習		①
第7回	PowerPointを使ったスライドの作成		①
第8回	PowerPointによるプレゼンテーション		①
第9回	演習		①
第10回	Excelによる表の作成		①
第11回	関数の利用		①
第12回	グラフの作成		①
第13回	集計		①
第14回	演習		①
第15回	Internetによる情報の収集 他		①
修 了 試 験			

学生へメッセージ コンピュータによる情報の収集、管理、分析は医療においても必要不可欠です。この講義を通して、パソコンのアプリケーションソフトを利用した基本的な作業が、自由にできるようにしてください。

科学的思考の基盤【情報統計学】

担当教員	陳 国躍	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 統計分析の方法論を学ぶことにより、科学的に分析、判断する能力を養う。			
授業の形式 主として講義形式で行う。			
成績評価の基準等 出席・レポート・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	Excel でやさしく学ぶ統計解析	東京図書

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 資料の整理 度数分布表 ヒストグラム		①
第2回	代表値 (平均、中央値、最頻値)		①
第3回	散布度 (範囲、標準偏差)		①
第4回	演習		①
第5回	相関 (散布図、相関係数)		①
第6回	回帰		①
第7回	正規分布の特性		①
第8回	標本平均の分布		①
第9回	区間推定		①
第10回	演習		①
第11回	仮説検定		①
第12回	母平均の検定		①
第13回	母平均の差の検定		①
第14回	適合度の検定		①
第15回	分割表による χ^2 検定		①
修 了 試 験			

学生へメッセージ 身近な話題の中にも統計的なデータは多くみられる。この授業では、データを整理し、その特徴を記述する方法、サンプルからデータ全体の特性を推測する方法等のうち、初歩的な事柄について、できるだけ分かりやすく説明しながら、データの統計的な見方を養う。

科学的思考の基盤【心 理 学】

担当教員	半田 温子	所 属	
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 人間の感覚・知覚・記憶・思考・感情・欲求などの基本的知識を理解する。			
授業の形式 主として講義形式で行うが、体験学習を随時取り入れる。			
成績評価の基準等 授業への出席・参加状況および試験により、総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	ベーシック心理学	医歯薬出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	心理学とは 知覚		①
第2回	学習・記憶		①
第3回	動機づけ		①
第4回	感情		①
第5回	パーソナリティ		①
第6回	知能		①
第7回	思考		①
第8回	発達(1)		①
第9回	発達(2)		①
第10回	人間関係		①
第11回	集団		①
第12回	精神的健康		①
第13回	カウンセリング		①
第14回	コミュニケーション		①
第15回	心理学の応用分野		①
修 了 試 験			

学生へのメッセージ

心理学の基礎を学ぶ中で、日常生活でみられる現象や行動を、心理学的観点から考えていきましょう。

科学的思考の基盤【文 学】

担当教員	高橋 秀晴	所 属	秋田県立大学
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的			
日本の近代文学を作品に現れた作家の問題意識を通して捉える。その作業により、人生の普遍的意味について考察することを目指す。なお、具体的到達点としては、以下の2点を想定している。			
(1) 小説の読み方に関する基礎理論を理解できる。			
(2) 太宰治作品の特徴が指摘できる。			
授業の形式	個人発表と質疑応答を中心とした演習形式。		
成績評価の基準等	発表(40%)、受講態度(10%)及び試験(50%)とによって総合的に判断する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	『きりぎりす』(新潮文庫)	新潮社

【授業計画】

授業回数	履修主題・履修内容	教科書
第1回	講義形態、評価について説明する。	①
第2回	「燈籠」「姥捨」に託されたメッセージについて考察する。	①
第3回	「黄金風景」「畜犬談」の設定意図について考察する。	①
第4回	「皮膚と心」「善蔵を思う」に潜在する不安について考察する。	①
第5回	「きりぎりす」「佐渡」の文体の特徴について考察する。	①
第6回	「千代女」「風の便り」の背後にある文学観について考察する。	①
第7回	「水仙」「日の出前」の虚構性について考察する。	①
修了試験		

学生へのメッセージ

受講者は1人1作品を選んで10分以内のプレゼンをする。それについて質疑応答をするため、あらかじめ当該作品を読んでおくこと。また、講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。

科学的思考の基盤【論 理 学】

担当教員	宮本 雲平	所 属	秋田県立大学 総合科学教育研究センター
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的 論理学とは正しい推論(前提から結論を導くこと)とはどのようなものかを追求する学問である。正しい推論は科学の基盤であると同時に、誤解のないコミュニケーションをするため人類が共有すべきルールでもある。本授業の目的は、論理的であるとは如何なることかを理解し、それを思考、会話、特に文書作成に活かす技術を身に付けることである。			
授業の形式 スライド・板書を用いて教員がテキストに沿った解説および演習問題の出題を行う。履修者は必要に応じてノートを取り、演習問題を解く。教員または履修者が演習問題の解答・解説を行う。			
成績評価の基準等 基本用語・概念を正しく理解し、文章・会話文の妥当性・誤謬(論理的な正しさ・誤り)を指摘できるか、また、正しい文書作成のためのノウハウが身についているかを試験で評価する。ただし、必要に応じてレポートを課す場合もある。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	まったくゼロからの論理学	岩波書店
②	理科系の作文技術	中央公論新社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	論理学とは、命題と真偽、推論と演繹、否定	論理学を概観し、論理学が扱う命題とその否定とは何かを学ぶ。	①
第2回	命題・述語論理学、連言・選言とド・モルガンの法則、消去法	命題の組み合わせである連言と選言とそれらの性質について学ぶ。	①
第3回	条件法と逆・裏・対偶、対偶論法、推移律	簡単な演繹の一つである対偶論法と推移律について学ぶ。	①
第4回	背理法、全称・存在・単称命題、「すべて」と「ある」	背理法および記述論理の基礎を学ぶ	①
第5回	全称・存在のド・モルガン、全称・存在の組み合わせ	記述論理におけるド・モルガンの法則を学ぶ。	①
第6回	準備作業(立案)、文章の組み立て	文章を書く前の準備方法と文章の構造について学ぶ。	②
第7回	パラグラフ	パラグラフの役割と書いてはいけない文の構造を学ぶ。	②
第8回	文の構造と文章のながれ	文の構造と、避けるべき構造を学ぶ。	②
第9回	はっきり言い切る姿勢、事実と意見	事実と意見を分ける意義・方法について学ぶ。	②
第10回	わかりやすく簡潔な表現	誤解を与えることのない文のつくりかたについて学ぶ。	②
修了試験			
学生へのメッセージ 「A社製のワクチンを接種した人全員に副反応Bが出た。」「Cさんはワクチンを接種したが、副反応Bは出なかった。」以上二つから、「CさんはA社製のワクチンを接種してない。」と言えますか？ 論理学は役に立つだけでなく、パズル的な面白みをもっています。楽しみながら学びましょう。			

人間と生活・社会の理解【社 会 学】

担当教員	和泉 浩	所 属	秋田大学教育文化学部
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的			
①現代社会の特質と諸問題を理解することで社会的存在としての人間をとらえる知識を学ぶ。 ②社会学の基礎を学び、医療や健康と社会、生活との関係とともに、社会事象を把握する上での社会学の見方を学ぶ。			
授業の形式			
主として講義形式で行います。資料も配付しますが、黒板に書いて説明していきます。			
成績評価の基準等			
成績は出席および最後の試験(1回)で評価します。			

【教科書・参考図書】

教科書は使用しません。授業の内容に関連するものをその都度、授業の中で指示します。

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	授業についての説明 社会学とはどのような学問か	授業の進め方、成績の評価 社会科学と社会学	
第2回	社会学誕生の背景	啓蒙主義と科学、国民国家	
第3回	社会学の特徴と方法	理論と実証、社会調査	
第4回	統計の考え方 調査倫理とインフォームド・コンセント	母集団、検定、推定、 多変量解析など	
第5回	社会学と医療 健康、主観的健康と客観的健康	医療社会学について 生物心理社会モデル	
第6回	健康、病気と社会	20世紀後半以降の医療と 社会の変化、QOL、ケア	
第7回	格差社会の問題:健康格差 教育格差、地域間格差 防災・減災とソーシャルキャピタル	階層と健康の結びつき ソーシャルキャピタル(社会関係資本)、レジリエンス	
第8回	生命倫理と社会①	インフォームド・コンセント	
第9回	生命倫理と社会②	消費者保護と医療	
第10回	生命倫理と社会③	リベラリズムとリバタリアニズム	
第11回	エンハンスメントをめぐる問題	エンハンスメントと医療	
第12回	エミール・デュルケムの社会学	デュルケムの『自殺論』	
第13回	マックス・ウェーバーの社会学	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	
第14回	機能主義	パーソンズの「病人役割」	
第15回	機能主義以降	フーコーの権力論など	
修了試験			

学生へのメッセージ

板書が多く、少し難しい内容もあるかもしれませんが、できるだけわかりやすく説明するようにします。

人間と生活・社会の理解【文化人類学】

担当教員	篠原 秀一	所 属	秋田大学教育文化学部
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 文化、宗教、風俗、生命の尊さなどの違いを学び、国際的な視野で人間を捉える。			
授業の形式 主として講義形式で行う。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス しぐさの諸文化Ⅰ	ボディランゲージの地域性	
第2回	しぐさの諸文化Ⅱ	「距離」の文化的・地域的意味	
第3回	衣生活の地域デザイン	被服とファッション	
第4回	食生活の地域デザインⅠ	世界の食生活地域	
第5回	食生活の地域デザインⅡ	日本の伝統食	
第6回	住生活と景観の地域文化	住まいと集落の地域デザイン	
第7回	情報の地域デザイン	情報・表現の地域性と 伝播・拡散・普遍化	
修 了 試 験			

学生へのメッセージ

文化、宗教、風俗、生命の尊さなどの違いを学び、国際的な視野で人間を捉える。文化の形成主体である人類の地域生活の特徴について、世界と日本の身近な生活事例に即して学ぶ。「生活文化」と「地域文化」、「地域性」をキーワードとし、人類の普遍性と可塑性を理解する。

人間と生活・社会の理解【人間関係論】

担当教員	戸田 麻美	所 属	
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 人間関係の発達を知り、社会における人間関係の在り方を理解する。			
授業の形式 主として講義形式で行うが、ロールプレイやグループワーク、心理テスト等、実践形式も取り入れる。			
成績評価の基準等 出席日数あるいは受講態度・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 基礎 人間関係論	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス ～人間関係論とは～		①
第2回	人間関係の中の自己と他者		①
第3回	対人関係と役割		①
第4回	態度と対人行動		①
第5回	集団と個人		①
第6回	コミュニケーションとは		①
第7回	まとめ～ここに寄り添う、とは～		①
修了試験			

人間の生活・社会の理解【家族援助論】

担当教員	長岡 真希子	所 属	秋田大学大学院医学研究科
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的			
① 家族を看護の対象として理解し、家族を1つの単位として援助する必要性を認識するために、家族の概念、家族の構造・機能・発達とその変容、及び家族の仕組みを学習する。			
② 家族看護学の理論を学び、看護者の果たす役割と援助方法について理解する。			
授業の形式 講義形式			
成績評価の基準等 出席状況、授業に臨む姿勢や演習への参加状況及び講義終了後の筆記試験			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護学テキスト NiCE 家族看護学	南江堂

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	家族とは何か	家族看護を学ぶ準備として家族を知る、自己の認識を知る	①
第2回	家族形態の変化と社会問題	家族形態の変化と社会問題について学ぶ	①
第3回	家族看護の対象の理解	家族看護の対象とは何か、家族の機能、家族の発達段階、家族システム論について学ぶ	①
第4回	家族看護アセスメント、支援方法を学ぶ	家族看護のアセスメント、支援方法を学ぶ	①
第5回	事例に基づいた家族の理解と支援(事例検討会)Ⅰ	家族支援における実践として事例に基づいた看護過程の展開についてグループで事例検討行う	①
第6回			①
第7回	事例に基づいた家族の理解と支援(事例検討会)Ⅱ	グループの検討結果を発表し全体でディスカッションする	①
第8回			①
第9回	事例に基づいた家族の理解と支援Ⅲ(事例検討会の振り返り)	事例検討会の振り返り	①
第10回	家族看護の実際を学ぶ	家族看護の展開について学ぶ	①
修了試験			

人間と生活・社会の理解【異文化コミュニケーション】

担当教員	阿部 祐子	所 属	国際教養大学
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 多様な文化背景に対応できるコミュニケーション能力を身につけ、異文化理解力、異文化受容度を高める。			
授業の形式 主として講義形式で行い、グループワーク、演習も取り入れ学習する。			
成績評価の基準等 出席(積極的授業参加、授業貢献、及び振り返り):60%・プロジェクト発表:20%・修了試験:20%			

【教科書・参考図書①②】

番号	書 名	発行所
①	改訂版 異文化トレーニング ボーダレス社会を生きる	三修社
②	外国人看護・介護人材とサステナビリティ持続可能な移民社会と言語政策	くろしお出版

【授業計画】

授業回数	履修主題 ・ 履修内容	教科書
第1回	コース紹介、なぜ異文化コミュニケーションが必要か	
第2回	文化とは、コミュニケーションとは	
第3回	言語/非言語コミュニケーション	
第4回	価値観	
第5回	異文化コミュニケーション	
第6回	異文化シミュレーション、異文化適応	
第7回	プロジェクト発表 まとめ	
修了試験		

学生へのメッセージ

社会の多様化が進む中で、看護の場、通常の生活の場における異文化の重要性を、自分自身に引きつけて考えられるように、一緒に学んでいけたらと思っています。

人間と生活・社会の理解【英 会 話】

担当教員	田金 雄一	所 属	国際教養大学
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的: 1) 英語の表現能力や英会話の能力を身につける。 2) 看護の現場において外国人の患者と英語でコミュニケーションを取る手法と態度を養う。			
授業の形式: 演習(対話の聴き取りとペア練習を中心として、併せて単語と発音の学習を行なう。)			
成績評価の基準等: 試験の成績を中心にし、授業への参加状況・課題の提出状況を加味して評価する。			

【教科書・参考図書】

・担当教員が作成したプリント(講義資料)を配布する。 ・受講時には<u>必ず</u>辞書を持参すること。英和、和英、英英辞典の入った電子辞書が望ましい。

【授業計画】

授業回数	Topic
第1回	“First-Time Visit”
第2回	“Emergency Patients”
第3回	“Examination Room/IV”
第4回	“Hospitalization”
第5回	“In the Recovery Room”
第6回	“Credit Card Payment/Discharge”
第7回	Final Exam
修 了 試 験	

学生へのメッセージ】

Welcome to my course! The most important thing to complete this course is to enjoy English, and the final goal is to be yourself and confident when you communicate in English. My job is to support you to accomplish the goal. So let's have fun together in English!

人間と生活・社会の理解【ビジュアル・コミュニケーション】

担当教員	坂本 憲信	所 属	秋田公立美術大学
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 視覚的に情報を伝えるコミュニケーション能力に必要な基礎的知識を学ぶ。			
授業の形式 講義と演習			
成績評価の基準等 出席と提出課題を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
	適宜配布、紹介する。	

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ビジュアルコミュニケーションとは		
第2回	発想をカタチにする		
第3回	色によってイメージを伝える		
第4回	ピクトグラム(絵文字)で意味をわかりやすくする		
第5回	タイポグラフィ(文字デザイン)で読みやすくする		
第6回	レイアウト(画面構成)ですっきり見やすくする		
第7回	キャラクターイラストで注目度を高める		
修了試験			

学生へのメッセージ

人体の構造と機能【生 物 学】

担当教員	高橋 正	所 属	
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数	1単位(15時間)
履修の目的			
生きているということはどういう現象なのか、生き物のからだを構成する成分や細胞の働きを学び、医療・看護にたずさわるために必要な生き物のとらえ方を身につける。			
授業の形式			
教科書にそって、随時、パワーポイントによる説明、関連事項の紹介等をまじえながら講義を行う。			
成績評価の基準等			
出席と受講態度、修了試験の結果を合わせて、総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	ヒトを理解するための生物学 改訂版 ISBN978-4-7853-5242-4	裳華房

【授業計画】

授業回数	履修主題	授業内容	教科書
第1回	生命とは	生物はどのようにできているのか、その成り立ちについて	①
第2回	細胞とその構造	生命の基本単位、細胞について	①
第3回	生命活動と代謝	生きているためのエネルギーはどのように獲得されるのか	①
第4回	生体内の分子、化学反応	からだをつくる成分、分子、酵素などについて	①
第5回	細胞分裂、細胞の老化	生きている状態を維持していくために必要なこと	①
第6回	遺伝情報と生物の体づくり	生命の設計図と細胞分化、器官形成など	①
第7回	生き物の生活環、遺伝、進化	生命を過去・現在・未来へとつなぐしくみ	①
修 了 試 験			

学生へのメッセージ

普段、生きていることを意識させないくらいに、生き物のからは精緻、巧妙にできていて、常にはたらき続けています。その貴重さ、ありがたさに気付くことが大切だと思います。

人体の構造と機能【人体の構造】

担当教員	今井 克幸	所 属	秋田大学医学部
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	2単位(60時間)
履修の目的 人体の構造について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・数回の宿題・テスト(2回)を総合的に評価する。			

【教科書：①②・参考図書：③④】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学	医学書院
②	解剖トレーニングノート	医学教育出版
③	人体の正常構造と機能 縮刷版	日本医事新報
④	「病気が見えるシリーズ」	MEDIC MEDIA

【授業計画】

授業回数	履修主題・履修内容	教科書
第1回	ガイダンス:解剖学用語、人体の階層性、ナノメートルの世界とは？	①②
第2回	細胞分子生物学:分子の微細3D構造、遺伝子の発現機構、DNA	①②
第3回	組織学、上皮組織、筋組織、神経組織、結合組織、細胞外マトリックス	①②
第4回	人体各部の名称、人体の恒常性、体液	①②
第5回	消化器系－1:口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、腹膜、嚥下、誤嚥	①②
第6回	消化器系－2:肝臓、膵臓、栄養の消化-吸収-輸送-貯蔵のしくみ	①②
第7回	呼吸器系－1:鼻腔、咽頭蓋、気管、気管枝、誤嚥、肺活量	①②
第8回	呼吸器系－2:肺の葉、肺胞構造、ガス交換、COPD	①②
第9回	循環器系－1:心臓の外形、内部構造、心周期、冠動脈、心電図	①②
第10回	循環器系－2:動脈系、静脈系、肺循環、門脈、胎盤循環、血液学	①②
第11回	泌尿器系－1:腎臓の構造、糸球体濾過、尿細管再吸収、ネフローゼ	①②
第12回	泌尿器系－2:血圧調節、酸塩基平衡、浸透圧調節、排尿、膀胱	①②
第13回	自律神経:交感神経、副交感神経、アドレナリン受容体	①②
第14回	内分泌系－1:視床下部－下垂体系、ペプチド性ホルモン	①②
第15回	内分泌系－1:ステロイドホルモン、核内受容体、内分泌疾患	①②
中 間 試 験		

授業回数	履修主題・履修内容	教科書
第 16 回	骨格－1:頭蓋骨、椎骨、体幹の骨、上肢の骨	①②
第 17 回	骨格－2:下肢の骨、骨盤、股関節、膝関節、関節の種類	①②
第 18 回	骨組織:骨層板系、破骨細胞、骨芽細胞、コラーゲン分子 (ECM)	①②
第 19 回	筋学－1:骨格筋、心筋、平滑筋、筋収縮の分子機構	①②
第 20 回	筋学－2:上肢・下肢の筋、体幹の筋、呼吸筋、咀嚼筋、表情筋	①②
第 21 回	中枢神経系－1:脳室、髄膜、視床下部、辺縁系、錐体路系	①②
第 22 回	末梢神経系－2:脳神経、脊髄神経、上肢・下肢の神経	①②
第 23 回	感覚器系－1:視覚、聴覚、平衡感覚	①②
第 24 回	感覚器系－2:皮膚知覚、痛覚、味覚、嗅覚	①②
第 25 回	免疫系－1:自然免疫、好中球、NK細胞、アレルギー	①②
第 26 回	免疫系－2:獲得性免疫、抗原提示、抗体産生、T&Bリンパ球	①②
第 27 回	女性生殖器:子宮・卵巣の変化とホルモン支配	①②
第 28 回	個体発生学:胚子、胎児、器官発生、先天性疾患	①②
第 29 回	まとめ	①②
第 30 回	まとめ	①②
修了試験		

学生へのメッセージ:解剖学は、学生の時には、最も嫌いな学習科目です。しかし、卒業生に、「もう一度受けたい講義は？」と聞くと、しばしば「解剖学！」と答えます。そこで、私は、学生が聞いていて「楽しい講義」、「興味を持てる講義」をします。医学の最先端の知識も教えます。「目からウロコがおちる講義」をします。人体は驚異の小宇宙です。蛋白質という“分子”が集まって構築されています。細胞内の微細な分子マシンの構造を勉強しましょう。細胞同士、臓器のあいだで行われている絶え間ない情報の交信(神経系、ホルモン、サイトカインなどを使用します。)現在では、生きた細胞内の分子の動きがレーザーで観察できます。3D動画アニメを多用し、分子の世界を可視化します。見えない世界を理解できると、ワクワクします。ところで意外でしょうが、医学は、文科系の学問です。難しい漢字の医学用語、ギリシャ語から派生した英語の医学用語がいっぱい出てきます。毎日、あらたな医学専門用語が雨のように降って来ます。溺れないように、しっかりついてきて下さい。語学の勉強をしてください。医学用語の「定義」を憶えてください。学問(=医学)は「言語」が重要です。3年後には臨床実習も経験し、看護学という山の頂に立ちます。その高い山頂に、ナースキャップをかぶって立ってみると、人体という“驚異の小宇宙”が、自分のまわりに山脈のように見えてきます。医学を勉強することで、「人間とはなにか？自分とは、どういう存在なのか？」という、いままではうまく理解出来なかったその疑問に対して、はっきりとした科学的な視点からのあなたの考え方ができるようになります。そんな素晴らしい、今とは違う「新たなパラダイム(科学的な視点)」に連れて行きます。一緒に頑張って勉強し、医学という山を登りましょう！皆で一緒にその山頂に立ちましょう！3年後には看護師として立派に成長し、自立した逞しい、人に頼りにされる看護師になりましょう！

人体の構造と機能【人体の機能】

担当教員	板東 良雄	所 属	秋田大学大学院医学系研究科
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	2単位(60時間)
履修の目的			
人体は細胞・組織・器官が有機的に互いに協調して恒常性を維持することによって正常な生命活動を維持している。本講義では人体の機能に重点をおいて学修するが、正常な人体の構造(解剖)と機能(生理)の破綻が様々な疾患につながることを理解する。ここで学修することのすべてが専門科目で学ぶための基礎知識として必須となる。			
授業の形式 講義形式(スライド中心)			
成績評価の基準等			
中間試験と修了試験の2回の試験を実施し、2回の平均が6割以上を合格とする。			

【教科書：①② ・ 参考図書：③～⑥】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学	医学書院
②	看護1000問学校 解剖生理学	宣広社
③	トートラ人体の構造と機能	丸善
④	解剖生理学	南山堂
⑤	ロス&ウィルソン 健康と病気のしくみがわかる解剖生理学 改訂版	西村書店
⑥	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学	メディカ出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識		①②
第2回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識		①②
第3回	第7章 身体の支持と運動Ⅰ(骨・関節)		①②
第4回	第7章 身体の支持と運動Ⅱ(筋肉と支配神経)		①②
第5回	第7章 身体の支持と運動Ⅲ(筋肉と支配神経)		①②
第6回	第3章 血液Ⅰ		①②
第7回	第3章 血液Ⅱ、第9章 生体の防御機構		①②
第8回	第4章 血液循環Ⅰ		①②
第9回	第4章 血液循環Ⅱ		①②
第10回	第4章 血液循環Ⅲ		①②
第11回	第3章 呼吸器Ⅰ		①②
第12回	第3章 呼吸器Ⅱ		①②
第13回	第3章 呼吸器Ⅲ		①②
第14回	第2章 栄養と消化吸収Ⅰ		①②
第15回	第2章 栄養と消化吸収Ⅱ		①②
中 間 試 験			

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 16 回	第2章 栄養と消化吸収Ⅲ		①②
第 17 回	第5章 体液調節と尿の生成Ⅰ		①②
第 18 回	第5章 体液調節と尿の生成Ⅱ		①②
第 19 回	第5章 体液調節と尿の生成Ⅲ		①②
第 20 回	第 10 章 生殖器Ⅰ		①②
第 21 回	第 10 章 生殖器Ⅱ		①②
第 22 回	第6章 内蔵機能の調節Ⅰ		①②
第 23 回	第6章 内蔵機能の調節Ⅱ		①②
第 24 回	第6章 内蔵機能の調節Ⅲ、 第9章 代謝と運動、体温とその調節		①②
第 25 回	第8章 情報の受容と処理Ⅰ		①②
第 26 回	第8章 情報の受容と処理Ⅱ		①②
第 27 回	第8章 情報の受容と処理Ⅲ		①②
第 28 回	第8章 情報の受容と処理Ⅳ		①②
第 29 回	第8章 情報の受容と処理Ⅴ		①②
第 30 回	第8章 情報の受容と処理Ⅵ、 第9章 皮膚		①②
修了試験			

学生へのメッセージ

この科目は臨床を理解する上で極めて重要であるため、試験に受かることが目標ではなく実際に臨床でも使える知識を身につけることが大切である。しかしながら、解剖生理学は理解しなければならない知識量が膨大であり、講義を一度聞いただけでは理解できず、まとめて短時間に習得することも不可能である。また、多くの学生が国家試験前でも苦戦しているので履修時からコツコツと少しずつ日々努力を積み重ねていくことが望ましい。理解しているかどうかは覚えてたの専門用語を意味もわからずに並べるだけでなく、自分の言葉で相手に説明でき、その内容を相手が理解してくれることが目安となる。

参考書は概して高いので自分に合ったものを選べばよい。ドリルや問題集もあった方が習熟度の把握に役立つが、国試に実際に出題された問題を用いて出題者の意図(何を問いたいのか？その内容のどこが重要なのか？)を分析した上で勉強するのも効率的な学習方法の一つと言える。

やむを得ず休校や振替を行う場合は随時通知する。

人体の構造と機能【看護形態機能論】

担当教員	菅村 聡子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的 看護実践に活かすための人体の構造の理解の仕方、機能の捉え方について学ぶ。1年次に習得した人体の構造と機能の知識を、生活者としての「ひと」に当てはめ、生活機能や生活行動の視点で捉えることにより、看護実践や臨床判断につながる基礎的能力を習得する。			
授業の形式 講義とグループワークを中心とした演習(発表を含む)			
成績評価の基準等 出席状況、授業態度、演習や課題への取り組みより総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護形態機能学	日本看護協会出版会
②	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス	1. 学習の進め方 2. 何のための生活機能・生活行動か	①②
第2回	日常生活行動を支えるからだの仕組みと機能	1. 恒常性維持のための流通機構 2. 恒常性維持のための調節機構	①②
第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	日常生活行動を遂行するためのからだの仕組みと機能	1. 息をする 2. 動く 3. 食べる 4. トイレに行く 5. 話す、聞く 6. 眠る 7. お風呂に入る	①②
第10回	まとめ	生活機能の視点で考える看護の役割	①

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

疾病の成り立ちと回復の促進【臨床栄養学】

担当教員	武藤 直将	所 属	秋田県立リハビリテーション・ 精神医療センター
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 食品や食物の持つ成分がどのような働きを持ち体内で代謝されているかについて理解し、疾病や病態の成因、進展、治癒が栄養とどのように関わっているかについて学ぶ。			
授業の形式	講義と調理実習		
成績評価の基準等	出席状況、授業態度、修了試験により総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	臨床栄養学	メディカ出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	オリエンテーション		①
第2回	入院患者の栄養管理		①
第3回	病院における食事提供の実際		①
第4回	食品成分とエネルギー		①
第5回	三大栄養素の役割		①
第6回	微量栄養素の役割		①
第7回	ライフステージの栄養		①
第8回	日本人の食事摂取基準		①
第9回	疾患別の食事療法		①
第10回 第11回	調理実習①	エネルギーコントロール食	①
第12回 第13回	調理実習②	タンパク質コントロール食	①
第14回 第15回	調理実習③	嚥下食	①
修 了 試 験			

疾病の成り立ちと回復の促進【感染免疫学】

担当教員	豊嶋 俊光	所 属	
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 感染と免疫の知識を学び、患者の安全、感染予防の消毒・滅菌についての正しい知識と態度を養う。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	シンプル微生物学	南江堂

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	微生物学序論		①
第2回	感染防御と免疫:1		①
第3回	感染防御と免疫:2		①
第4回	細菌各論:グラム陽性球菌		①
第5回	細菌各論:腸内細菌		①
第6回	細菌各論:グラム陰性、陽性桿菌		①
第7回	細菌各論:結核菌、マイコプラズマ クラミジア、リケッチア		①
第8回	ウイルス学総論		①
第9回	ウイルス学各論:1		①
第10回	ウイルス学各論:2		①
第11回	ウイルス学各論:3、真菌:1		①
第12回	真菌:2、寄生虫学:1		①
第13回	寄生虫学:2、感染症予防対策:1		①
第14回	感染症予防対策:2		①
第15回	まとめ		①
修 了 試 験			

疾病の成り立ちと回復の促進【病 理 学】

担当教員	齊藤 昌宏 高橋 さつき 高橋 真帆	所 属	平鹿総合病院 〃
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 病理・病態生理学の意義を理解し、病因・病変の特徴などについて学び、病気の形成に関する 共通知識を学ぶ。			
履修目標 1) 病気の成り立ちを臓器、組織、細胞の変化(病変)を通して学ぶ。 2) 重要な病気を例に取り、それらを原因と経過を理解する。			
授業の形式 主として講義形式で行い、また、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	はじめの一步の病理学	羊土社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 病理学	肝硬変の主な原因を挙げ、なぜ生命に危険かを理解	①
第2回	細胞、癌	上皮細胞の種類を確認する、胃癌のボールマン分類	①
第3回	腫瘍	腫瘍の定義と分類を説明し、形態発育	①
第4回	細胞傷害	細胞変性、壊死、萎縮、褥創	①
第5回	循環傷害	心筋梗塞、狭心症、動脈瘤	①
第6回	循環傷害	粥状硬化症、塞栓症、傍側循環	①
第7回	浮腫	浮腫の起こる原因とその具体例、ネフローゼ症候群	①
第8回	脳卒中	脳底動脈の分布を確認し、脳卒中の原因と分類	①
第9回	先天異常	環境要因、染色体の異常、遺伝子異常、多因子遺伝	①
第10回	先天異常	染色体異常と遺伝子レベルの異常	①
第11回	修復と再生	肉芽組織と組織の異物の処理、肥大と過形成、化生	①
第12回	感染症	エイズ、真菌、原虫感染	①
第13回	炎症	胞巣織炎、膿瘍、乾酪化、炎症細胞	①
第14回	腫瘍	病変臓器を観察して腫瘍組織の肉眼像、転移の様子	①
第15回	まとめ		①
修了試験			

疾病の成り立ちと回復の促進【臨床病態学Ⅰ】

担当教員	藤盛 修成 天満 和男 中山 勝敏 高橋 俊明 奈良 宏周 早川 宏一	所 属	市立横手病院 雄勝中央病院 秋田大学大学院医学系研究科 平鹿総合病院 追分歯科医院 秋田厚生医療センター
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数 (時間数)	2単位(60時間)
履修の目的 各系統(消化器、呼吸器、循環器、歯・口腔、眼科)の疾患の原因、症状、治療について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式で行い、また、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席・数回の宿題・テスト(4回)を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 消化器	医学書院
②	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	医学書院
③	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論	医学書院
④	系統看護学講座 専門 呼吸器	医学書院
⑤	系統看護学講座 専門 循環器	医学書院
⑥	系統看護学講座 専門 歯・口腔	医学書院
⑦	系統看護学講座 専門 眼	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	消化器疾患	食道・胃の疾患	①
第 2 回		十二指腸・大腸・小腸の疾患	
第 3 回		クローン病・大腸がん・潰瘍性大腸炎 胆道・胆嚢・膵臓の疾患	
第 4 回		膵炎・胆嚢がん、肝臓の疾患:肝炎	
第 5 回		肝臓の疾患:肝がん、他	
修 了 試 験			
第 6 回	麻酔学 手術療法	麻酔法(全身麻酔、局所麻酔) 手術の侵襲と生体の反応 創傷治癒過程、創傷管理 術後疼痛管理	②③

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 7 回	外科的治療を要する疾患 の診断、治療、術後管理	食道がん・胃がん	②③
第 8 回		大腸がん・胆石	
第 9 回		肺がん・肝臓がん 膵臓がん・乳がん	
第 10 回			
第 11 回			
第 12 回			
修 了 試 験			
第 13 回	呼吸器疾患	1. 肺の仕組み	④
第 14 回		2. 呼吸器の構造	
第 15 回		3. 呼吸器疾患の発症部位	
第 16 回		4. 呼吸器疾患の病態生理・症状・反応・検査・治療	
第 17 回		5. アレルギー性疾患の病態生理・症状・反応・検査・治療	
第 18 回			
修 了 試 験			
第 19 回	循環器疾患	1. 循環器系の疾患の病態生理・症状・治療	⑤
第 20 回		虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞	
第 21 回		動脈硬化症、高血圧症、心不全等	
第 22 回		2. 主な検査	
第 23 回		1)心電図	
第 24 回		2)心臓カテーテル検査・PTCA	
	3)心エコー図法		
	4)心負荷		
3. 主な治療			
修 了 試 験			
第 25 回	歯・口腔疾患	歯・口腔疾患の病態生理・	⑥
第 26 回		症状・検査・治療	
第 27 回	眼科疾患	眼科疾患の病態生理・	⑦
第 28 回		症状・検査・治療	

疾病の成り立ちと回復の促進【臨床病態学Ⅱ】

担当教員	手島 和暁 金澤 達郎 鈴木 丈博 佐々木 研 加藤 俊祐 佐野 達也	所 属	平鹿総合病院 秋田大学医学部附属病院 平鹿総合病院 平鹿総合病院 秋田大学医学部附属病院 佐野耳鼻咽喉科
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	2単位(60時間)
履修の目的 各系統(血液、腎・泌尿器・運動器、耳鼻科)の疾患の原因、症状、治療について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式で行い、また、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席・テスト(5回)を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 血液・造血液	医学書院
②	系統看護学講座 専門 腎・泌尿器	医学書院
③	系統看護学講座 専門 アレルギー・膠原病・感染症	医学書院
④	系統看護学講座 専門 運動器	医学書院
⑤	系統看護学講座 専門 内分泌・代謝	医学書院
⑥	系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	血 液	1)血液の生理・造血の仕組み 2)血液疾患の症候・検査 3)赤血球の疾患の病態の生理・症状・反応・検査・治療 4)白血球系の疾患の病態生理・症状・反応・検査・治療 5)出血性疾患・性感染症の病態生理・症状・反応・検査・治療	①
修 了 試 験			
第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回	腎・膠原病	腎臓 1)腎臓の機能と構造 2)腎疾患の病態生理・症状・検査・治療 膠原病 1)膠原病の病態生理・症状・検査・治療	②③
修 了 試 験			

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第12回 第13回 第14回 第15回 第16回	泌尿器疾患	1)腎不全の病態生理・症状・検査・治療 2)腫瘍・癌の病態生理・症状・検査・治療 3)その他腎疾患の病態生理・症状・検査・治療	②
修了試験			
第17回 第18回 第19回 第20回 第22回	運動器疾患	1)整形外科とは 2)骨の構造・形態・機能 3)関節の構造 4)脊柱 5)整形外科の診察、検査、治療 6)各疾患の病態生理・症状・検査・治療 (1)骨折 (2)変形性関節症 (3)変形性股関節症 (4)関節リウマチ 5)脊椎疾患、外傷 6)麻痺・破行	④
修了試験			
第23回 第24回 第25回 第26回 第27回	内分泌・代謝	1)内分泌系疾患 (1)脳下垂体、上皮小体、副腎などの疾患 2)代謝系疾患 (1)糖尿病 (2)高脂血症 (3)痛風 (4)甲状腺疾患	⑤
修了試験			
第28回 第29回	耳鼻科疾患	耳鼻咽喉疾患の病態生理・症状・検査・治療	⑥

疾病の成り立ちと回復の促進【臨床病態学Ⅲ】

担当教員	米川 由夏 藤谷 淳 福嶋 隆三 近藤 類 三浦 善典 高橋 明子	所 属	平鹿総合病院 福嶋内科医院 平鹿総合病院 平鹿総合病院 平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 1. 各系統(脳血管疾患)の原因、症状、治療について学ぶ。 2. リハビリテーション医学について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式で行い、また、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席・テスト(2回)を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 脳・神経疾患患者の看護	医学書院
②	新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護	メヂカルフレンド社
③	系統看護学講座 専門 女性生殖器疾患患者の看護	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	リハビリテーション 医学	1)総論 リハビリテーションとは	②
第2回		2)総論 障害モデル・ICF・リハアプローチの考え	②
第3回		3)理学療法	②
第4回			
第5回		5)作業療法	②
修了試験			
第6回	脳神経疾患	1)総論 2)主な神経系疾患(多発性硬化症・急性脊髄炎・パーキンソン病・顔面神経麻痺・髄膜炎・アルツハイマー病等)の病態生理、検査、治療法	①
第7回			
第8回		3)主な脳・血管疾患(クモ膜下出血・脳梗塞・脳出血・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症等)の病態生理、検査、治療法	①
第9回			
第10回			
修了試験			
第11回	婦人科疾患	婦人科疾患の病態生理・症状・検査・治療	③
第12回			
第13回	肺理学療法		
第14回			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

疾病の成り立ちと回復の促進【臨床薬理学】

担当教員	酒井 良隆 細谷彌智之	所 属	平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 薬物治療について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	薬理学を学ぶにあたって		①
第 2 回	薬理学の基礎知識		
第 3 回	抗感染症薬		①
第 4 回			
第 5 回	抗がん剤		①
第 6 回	免疫治療薬		①
第 7 回	抗アレルギー薬、抗炎症薬		
第 8 回	末梢での神経活動に作用する薬物		
第 9 回	中枢神経系に作用する薬物		
第 10 回	循環器系に作用する薬物		
第 11 回	呼吸器・消化器・ 生殖器系に作用する薬物		①
第 12 回	物質代謝に作用する薬物、 皮膚科用薬、眼科用薬		
第 13 回	救急の際に使用される薬物、 漢方薬		
第 14 回	消毒薬、輸液剤、輸血剤		
第 15 回	看護業務に必要な薬の知識		
修 了 試 験			

疾病の成り立ちと回復の促進【対人援助論】

担当教員	谷口 太郎 高岡 由貴子	所 属	愛児園
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 対人援助関係を成立するために必要な基礎的知識を学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式で行うが、ロールプレイやグループワーク、心理テスト等、実践形式も取り入れる。			
成績評価の基準等 出席日数あるいは受講態度・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 基礎 人間関係論	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス コーチング		①
第2回	アサーティブコミュニケーション		①
第3回	保健医療チームの人間関係		①
第4回	患者を支える人間関係		①
第5回	家族を含めた人間関係		①
第6回	地域を作る人間関係		①
第7回	まとめ・振り返り		①
修 了 試 験			

健康支援と社会保障制度【健康科学論】

担当教員	佐々木 英行	所 属	平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第1学年／前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 健康とは各自のライフスタイルの結果として作られるものである。日常生活の中で健康を守るために必要な栄養摂取、運動の確保、ストレスコントロール、休養、健康診断など、多くの分野についてバランスの取れた見識を育てるよう、資料とともに議論を展開する。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書①・参考図書②】

番号	書 名	発行所
①	テキスト健康科学	南江堂
②	健康科学論	飛鳥企画

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 健康の定義	健康の概念について	①
第2回	体調とライフスタイル	健康習慣と、摂取食品、サーカディアンリズムについて	①
第3回	生活習慣病と危険因子	生活習慣病の発生機序、危険因子とその回避について	①
第4回	身体活動の原理と方法	運動時のエネルギー生産と供給 運動の3つの種類	①
第5回	栄養/体重コントロールと評価法	日本人の栄養所要量 栄養過剰摂取と不足	①
第6回	運動・スポーツの健康効果とその方法	運動がもたらす様々な効果について	①
第7回	高齢者の健康課題と対策について	高齢者の持つ特性と、健康問題 老化防止のための運動について	①
修了試験			

健康支援と社会保障制度【健康援助論】

担当教員		所 属	横手市
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15 時間)
履修の目的 人々の暮らしと地域における看護について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	適宜プリントを配布します。	

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	地域保健活動とは		①
第 2 回	母子保健活動	地域保健活動のツール 家庭訪問、保健相談、健康教育 健康診査、 グループ支援・地域組織活動	①
第 3 回	成人・老年保健活動		①
第 4 回	成人・老年保健活動		①
第 5 回	健康の駅		①
第 6 回	精神保健活動	地域保健活動のツール 家庭訪問、保健相談、健康教育 健康診査、 グループ支援・地域組織活動	①
第 7 回	地域包括支援センター		①
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

健康支援と社会保障制度【公衆衛生学】

担当教員	小 裕 真 吾	所 属	秋田県由利地域振興局
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 環境が人間の健康に及ぼす影響と、健康を維持増進し望ましい健康生活をおくるための保健活動を理解する。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生	医学書院
②	公衆衛生がみえる 2024－2025	MEDIC MEDIA
③	国民衛生の動向	厚生統計協会

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	公衆衛生と健康の概念		①②③
第 2 回	公衆衛生のしくみ、疫学・保健統計		①②③
第 3 回	環境と健康、国際保健		①②③
第 4 回	感染症対策、健康危機管理・災害保健		①②③
第 5 回	母子保健、成人保健、高齢者保健		①②③
第 6 回	精神保健、歯科保健、障害者保健・難病保健		①②③
第 7 回	学校と健康、職場と健康		①②③
修 了 試 験			

健康支援と社会保障制度【社会福祉・社会保障】

担当教員	天野 達	所 属	
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 社会福祉と医療・社会保障の関連について理解し、生活者の健康に必要な社会資源の活用や関係機関の調整について学ぶ			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス、社会保障制度と社会福祉 (現代社会の変化と社会保障制度と社会福祉)		①
第2回	医療保障		①
第3回	所得保障と公的扶助		①
第4回	高齢者福祉と介護保障		①
第5回	(児童家庭福祉を含む)		①
第6回	障害者福祉		①
第7回	社会福祉実践と医療・看護		①
修 了 試 験			

健康支援と社会保障制度【関係法規】

担当教員	木内 雄	所 属	健康福祉部 健康環境センター
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 健康と環境に関連した法令の概念を理解し、看護に関連する法規について理解する。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	新体系看護学 関係法規	メヂカルフレンド社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 法規の概念		①
第2回	医事法規		①
第3回	薬事法規		①
第4回	保健衛生法規		①
第5回	予防衛生法規		①
第6回	環境衛生法規		①
第7回	公害関係法規、その他の関係法規		①
修了試験			

健康支援と社会保障制度【保健医療論】

担当教員	堀口 聡	所 属	平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15 時間)
履修の目的 保健・医療の発達と機能及び今日的課題を学び、保健医療がどのような社会的期待を担っているかについて理解する。			
授業の形式 主として講義形式である。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 別巻 総合医療論	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	医療の歩みと医療の方向	(1)現代医学の起源 (2)今後の医療の動向	①
第 2 回	生活と健康	(1)産業社会の発展と人間の健康 (2)疾病の一次予防と生活習慣病の考え方 (3)高齢者社会と少子化 (4)障害者と社会 (5)心の健康と精神医療 (6)生活と環境衛生、保健・福祉行政	①
第 3 回	先端医療技術の高度化と健康・生命をめぐる課題	(1)現代医療の最前線 (2)現代医療技術の諸問題 (倫理上のジレンマを含む)	①
第 4 回	医療における患者の権利	(1)患者の権利尊重の医療背景 (2)患者の権利主張とその承認 (3)患者の自己決定権	①
第 5 回 第 6 回 第 7 回	その他、医療における諸問題		①
修 了 試 験			

基礎看護学【基礎看護学概論】

担当教員	吉成 道子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	看護の対象を理解し、看護の機能及び、保健医療福祉における看護の役割を学ぶ。 あわせて看護理論、看護倫理について学ぶ。		
授業の形式	主として講義形式で行い、必要に応じて課題学習やグループワークを行う。		
成績評価の基準等	出席・課題提出状況・テストを総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学 1	医学書院
②	新版 看護者の基本的責務 定義・概念・基本法・倫理	日本看護協会出版会
③	看護覚え書ー看護であること、看護でないことー	現代社
④	看護の基本となるもの	日本看護協会出版会
⑤	看護理論	南江堂
⑥	よくわかる看護者の倫理綱領	照林社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	I 看護とは	1. 看護の語源・原点 2. 看護の歴史 3. 看護の概念	①
第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回	II 看護の対象の理解	1. 人間とは 2. 健康とは 3. 人間と環境	①
第 6 回 第 7 回	III 看護の役割と機能	1. 看護の実践と質の保証 2. 保健医療システムと看護	①
第 8 回 第 9 回 第 10 回	IV 主な看護理論	ナイチンゲールの理論 ヘンダーソン ベナー、トラベルミー 等	①③ ④⑤
第 11 回	V 看護の法と制度	保健師助産師看護師法 看護教育制度	①②
第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	VI 看護と倫理	1. 倫理とは 2. 医療専門職の倫理規定、 看護職の倫理綱領	①②
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【共通看護技術Ⅰ】

担当教員	菅村 聡子 大坂 美穂 金子 利恵 珍田 悦子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	看護を実践するために必要な基本的な技術を学ぶ。		
授業の形式	主として講義・演習を行う。		
成績評価の基準等	出席・授業の参加状況・課題・筆記試験を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ	医学書院
②	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	看護技術	1. 看護技術とは 2. 看護技術の学習の仕方	①②
第2回	安全・事故防止	1. 安全とは 2. 事故防止と対策	①
第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	コミュニケーション	1. 看護におけるコミュニケーション技術 2. 効果的なコミュニケーション技術	①
第8回 第9回 第10回 第11回	記録	1. 看護記録の意義と原則 2. 看護記録と法 3. 看護記録の種類 4. 看護学生の医療情報管理	①
第12回 第13回 第14回 第15回	指導技術	1. 指導技術 1) 看護の教育機能 2) 指導の対象者と場・種類 3) 指導のプロセスと進め方 4) 指導計画書の作成	①
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【共通看護技術Ⅱ】

担当教員	清水 真理子 珍田 悦子 伊藤 恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	環境を整え、日常生活を整えるための技術を学ぶ。		
授業の形式	主として講義・演習を行う。		
成績評価の基準等	出席・授業の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ	医学書院
②	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	演習内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	環 境	1. 環境の調整 2. 病床の整備 1) ベッドメイキング 2) シーツ交換	ベッドメイキング シーツ交換	②
第6回 第7回 第8回 第9回	感染予防	1. スタンダードプリコーション 2. 感染源対策 3. 感染経路別対策 4. 感染性廃棄物の取り扱い	感染予防 無菌操作	①
第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	活動と睡眠	1. 活動と運動に関する技術 1) 移動技術とボディメカニクス 2) 姿勢と動作 3) 体位変換 4) 安静の弊害 5) レクリエーション 2. 睡眠と休息に関する技術 1) 睡眠の生理 2) 睡眠・休息への援助方法	移動技術 体位変換	②
修了試験				

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【生活援助技術】

担当教員	金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 生活を理解し、日常生活を整えるための技術を学ぶ。			
授業の形式 主として講義・演習を行う。			
成績評価の基準等 出席・授業の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	演習内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	清 潔	1. 全身清拭 2. 洗髪 3. 衣生活 4. 口腔の清潔 5. 陰部の清潔 6. 部分浴(手浴・足浴)	寝衣交換 全身清拭 洗髪 陰部洗浄	①
第10回 第11回	食事と栄養	1. 栄養状態のアセスメント 2. 食事の種類 3. 食事の援助		①
第12回 第13回 第14回 第15回	排 泄	1. 排泄のメカニズムとアセスメント 2. 排泄の援助 1) 尿器・便器のあて方 2) 排泄を促すための援助 (1) 浣腸 (2) 導尿・膀胱留置カテーテル		①
修 了 試 験				

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

担当教員	清水 真理子 珍田 悦子 伊藤 恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的	生命活動を支えるための援助技術を学ぶ。		
授業の形式	主として講義・演習を行う。		
成績評価の基準等	出席・授業の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	医学書院
②	看護過程に沿った対症看護	学研

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	演習内容	教科書
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回	呼吸・循環を整える 援助技術	1. 呼吸困難のある人への援助 2. 吸引とは 3. 酸素吸入・薬液吸入とは	吸引・吸入	①②
第 5 回 第 6 回		電法を必要とする人への援助	電法	①②
修 了 試 験				
第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回	症状別看護と 急変対応	1. 様々な症状のある患者への 援助 2. 急変対応とは	事 例 学 習 発表・討議	①②

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

担当教員	伊藤 恵 金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	診療(治療・処置・検査)に伴う技術を学ぶ。		
授業の形式	主として講義・演習を行う。		
成績評価の基準等	出席・授業の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	演習内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	与 薬	1. 与薬時の看護師の役割 2. 与薬実施上の原則 3. 経口与薬 4. 皮内、皮下、筋肉注射 5. 点滴静脈内注射	経口与薬法 皮下注射 筋肉内注射 点滴静脈内注射	①
第10回	輸 血	1. 目的・種類 2. 実施上の注意 3. 輸血の方法		①
第11回	包帯法	1. 包帯法の目的・種類 2. 包帯材料 3. 巻軸包帯法・布拍包帯法		①
第12回 第13回 第14回 第15回	検査をうける 患者の看護	1. 検査の目的と意義 2. 検査時の看護師の役割 3. 各検査の目的および採取法・ 介助法 4. 採血の実際 5. 穿刺(目的・種類・実施上の 注意) 6. 生体検査・検体検査 7. 身体計測の意義と実際	採血 身体計測	①
修 了 試 験				

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【ヘルスアセスメント】

担当教員	菅村 聡子 金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	生命の徴候を観察し、対象把握のための基本的技術を学ぶ。		
授業の形式	主として講義・演習を行う。		
成績評価の基準等	出席・授業や演習の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。 課題の提出を前提とした授業では未提出の場合、当該授業の出席を認めないことがある。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I	医学書院
②	はじめてのフィジカルアセスメント	メヂカルフレンド社
③	看護過程に沿った対症看護	学研
④	看護覚え書ー看護であること、看護でないことー	現代社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	演習内容	教科書
第1回 第2回	観察の意義 ヘルスアセスメント と看護の役割	1. 看護における観察の意義 2. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 3. フィジカルアセスメントに共通する技術		①②④
第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	バイタルサインの測定	1. バイタルサインの定義 2. バイタルサイン測定の意義 2. バイタルサイン測定の実際(演習) 3. バイタルサインの活用	バイタルサインの測定	①②
第8回 第9回	症状や徴候を知る	1. 様々な症状や徴候の成り立ち 2. 問診のポイント		①②③
第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	フィジカルアセスメント	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 3. 消化器系のフィジカルアセスメント 4. 脳神経系のフィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーション	①②
修了試験				

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【看護アセスメント論Ⅰ】

担当教員	大坂 美穂	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	1) 看護の対象である人間を理解し、看護理論を活用してアセスメント能力を身につける。 2) 看護問題を解決するための思考過程について学ぶ。		
授業の形式	主として講義や課題学習、グループワークを行う。		
成績評価の基準等	出席・授業や演習の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。 課題の提出を前提とした授業では未提出の場合、当該授業の出席を認めないことがある。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I	医学書院
②	看護の基本となるもの	日本看護協会出版会
③	看護過程に沿った対症看護	学研
④	エビデンスに基づいた疾患別看護ケア関連図	中央法規

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	看護におけるアセスメント	1. アセスメントの概要 2. 看護論演習 3. 事例演習	①②
第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	看護過程と臨床判断	1. 看護過程に関する基礎知識 1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素 3) 看護診断とは 4) 事例演習 2. 臨床判断に関する基礎知識 1) 臨床推論と臨床判断 2) 臨床判断モデル 3) 臨床判断のプロセス 4) 事例演習	①②③④
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【看護アセスメント論Ⅱ】

担当教員	菅村 聡子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 看護アセスメント論Ⅰで学んだ看護過程の一連のプロセスを理解し、実践に活用するための展開方法を学ぶ。			
授業の形式 主として講義や課題学習、グループワークを行う。			
成績評価の基準等 出席・授業の参加状況・課題を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ	医学書院
②	看護過程に沿った対症看護	学研
③	エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図	中央法規

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス	学習の進め方 事例の提示	①②③
第2回 第3回 第4回 第5回 第6回	事例を用いた看護過程の展開①	事例によるグループワーク 1) アセスメント 2) 看護診断 3) 計画立案 4) 実施・評価	
第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	事例を用いた看護過程の展開②	1. 事例による個人ワーク 1) アセスメント 2) 看護診断 3) 計画立案 4) 実施・評価 2. ケースカンファレンスの体験 3. 学びの成果発表会	
第13回 第14回	臨床判断演習	臨床推論・臨床判断の実際 (思考過程の体験)	
第15回	まとめ		

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【看護研究】

担当教員	金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 看護研究の意義とプロセスを理解し、看護研究の方法を学ぶ			
授業の形式 主として講義・演習を行う			
成績評価の基準等 出席・授業の参加状況・課題・1回の筆記試験を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 別巻 看護研究	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	看護研究の意義 研究と倫理	1. 看護実践における研究の意義	①
第2回		2. 研究の条件 3. 看護研究における倫理	
第3回	看護研究のプロセス	1. 研究課題の見つけ方 看護実践のなかから生まれる研究疑問	①
第4回		2. 文献検討の意義	
第5回		3. 文献検索の実際	
第6回		4. 研究デザインの種類と選び方 5. 事例研究の特徴 6. 研究計画書の意義 7. 研究計画書の構成と内容	
第7回	看護研究論文の評価	1. 研究論文の構成と内容 2. 看護研究論文を評価する	
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

基礎看護学【総合看護技術演習】

担当教員	大坂 美穂	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 対象の状態や状況に応じて、安全・安楽に配慮した看護の基本的技術を実践する能力を身につけ、自信をもって実習に臨むことをねらいとする。			
授業の形式 主として課題学習、グループワーク、技術練習を行う。			
成績評価の基準等 出席状況、技術試験の結果、課題学習や演習への取り組みなど総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I	医学書院
②	系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術 I	医学書院
③	はじめてのフィジカルアセスメント	メヂカルフレンド社
④	看護過程に沿った対症看護	学研

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回	ガイダンス	演習のすすめ方 事例検討とケア計画シートの作成	①② ③④
第3回 第4回 第5回	事例検討と看護技術の 検討	グループごとに ケア計画に沿った技術検討・技術練習	
第6回	技術発表・検討会	各グループで検討した内容の発表と共有・意見交換 技術の視点の確認	
第7回 第8回 第9回 第10回	事例検討と技術練習	個人での技術練習	
第11回 第12回 第13回 第14回	技術試験	技術試験	
第15回	まとめ	学びの振り返りと共有	

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護概論Ⅰ】

担当教員	珍田 悦子	所 属	専任教員
------	-------	-----	------

	佐藤 研		
対象学年/開講時期	第1学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 地域で暮らす対象及び生活基盤である暮らしを理解し、暮らしが健康に与える影響について学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式で行う。			
成績評価の基準等 出席、授業への参加態度、課題学習の取り組み、筆記試験を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院
③	写真でわかる訪問看護 アドバンス	インターメディカ
④	国民衛生の動向	厚生統計協会

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	人々の暮らし	暮らすということ 支え合って生きること(人とのつながり、地域とのつながり)	①②③
第 2 回	生活環境と健康	人々の生活圏、生活環境(文化的・社会的・自然環境)、環境と健康	
第 3 回	地域・在宅看護論の対象	地域に暮らすすべての人々 健康状態(健康のよい状態～終末期)、発達段階(胎児期～老年期)、家族	
第 4 回	健康の保持増進	ヘルスプロモーション、ハイリスクアプローチ、健康行動理論、セルフケア理論	
第 5 回	ライフステージにおける保健活動	学校保健、産業保健	
第 6 回	パートナーシップ	地域で暮らす人々とパートナーを組むエンパワメント	
第 7 回		接遇とマナー	
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護概論Ⅱ】

担当教員	珍田 悦子	所属	専任教員
------	-------	----	------

対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 対象の暮らしの場に出向き、生活環境と健康の関連について学ぶ。			
授業の形式 主として演習形式で行う。			
成績評価の基準等 出席、課題学習に向かう姿勢、フィールドワークの参加態度、記録内容、まとめ及び終了後の課題レポートを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	地域の特性とそこで暮らす人々と健康の理解	フィールドワークオリエンテーション フィールドワーク 小学校 企業 まとめ	①②
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護概論Ⅲ】

担当教員	吉成 道子	所属	専任教員
------	-------	----	------

	佐々木 康子		
対象学年/開講時期	第1学年/通年	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 地域・在宅看護論の看護の基盤となる概念を理解する。			
授業の形式 主として講義形式で行う。			
成績評価の基準等 出席、授業への参加態度、課題学習の取り組み、筆記試験を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院
③	写真でわかる訪問看護 アドバンス 新訂版	インターメディカ
④	国民衛生の動向	厚生統計協会

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	地域・在宅看護論の理解	地域・在宅看護論の概念 地域における看護活動の歴史	① ②③④
第 2 回	地域包括ケアシステム	医療政策の動向と在宅医療の現状 地域包括ケアシステムの理念 自助・互助・共助・公助の意義と役割	
第 3 回	健康と暮らしを支える看護	地域包括ケアシステムにおける看護の 役割、家族を支える看護、看護が提供 される多様な場での看護実践	
第 4 回	地域・在宅看護にかかわ る制度とその活用	医療保険制度、介護保険制度 訪問看護の対象	
第 5 回		訪問看護事業所の運営、訪問看護活 動の実際、訪問看護に関する記録	
第 6 回	地域での暮らしを継続的 に支援する	意思決定支援、ACP、インフォーマル ネットワークの維持	
第 7 回	さまざまな職種で支える地 域での暮らし	地域・在宅看護における多職種連携 医療専門職、福祉専門職等、ネットワ ークづくり	
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護援助論Ⅰ】

担当教員	佐々木 康子	所 属	専任教員
------	--------	-----	------

	珍田 悦子		
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 地域で暮らす人々とその家族の看護について理解する			
授業の形式 主として講義形式で行い、また演習も行う			
成績評価の基準等 出席、テスト(80%)、課題学習、演習(20%)に向かう姿勢を総合的に評価する			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院
③	写真でわかる訪問看護 アドバンス 新訂版	インターメディカ

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 暮らしを支える看護の基本	在宅での暮らしを継続するための日常生活支援 ICFモデル	①②③
第 2 回		本人らしさを理解するコミュニケーション 療養の場における家族のとらえ方	
第 3 回		地域・在宅における時期別の看護 療養の場におけるヘルスアセスメントの基本	
第 4 回	暮らしを支える看護技術	食事への支援	
第 5 回		排泄への支援	
第 6 回		活動と睡眠への支援	
第 7 回		清潔・衣生活への支援と感染予防	
第 8 回		リスクマネジメント 災害時、緊急時の対応、在宅医療廃棄物	
修 了 試 験			
第 9 回	暮らしの場における面	演習オリエンテーション、演習	①②③
第 10 回	接技術演習	演習	
第 11 回	暮らしの場での看護実	演習オリエンテーション	
第 12 回	践演習	グループワーク	
第 13 回		グループワーク	
第 14 回		発表・ディスカッション	
第 15 回		発表・ディスカッション	

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護援助論Ⅱ】

担当教員	小川 米子	所 属	
------	-------	-----	--

	石川 知子		
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 地域で暮らす人々とその家族への看護について医療的管理とケアの実際を理解する			
授業の形式 主として講義形式で行う			
成績評価の基準等 出席、テスト、授業への参加態度を総合的に評価する			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院
②	写真でわかる訪問看護 アドバンス 新訂版	インターメディカ

授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	暮らしの場で行われる 治療と看護	医療機器管理におけるリスクマネジメント、医療危機管理に必要な物品の調整、関連職種との連携、在宅医療廃棄物の取り扱い 褥瘡予防、褥瘡処置	①②
第 2 回		在宅中心静脈栄養法 (HPN)、輸液、経管栄養法の管理	
第 3 回		在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気量法、在宅酸素療法 (HOT)	
第 4 回		膀胱留置カテーテル管理、ストーマ管理	
第 5 回		疼痛緩和ケア、医療用麻薬の取り扱い	
第 6 回		病状変化時の対応、意思決定支援、家族への死の準備教育、グリーフケア	
第 7 回	終末期及び看取りの看護		
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護援助論Ⅲ】

担当教員	佐藤 静 佐藤 浩平 塚本 信太郎 佐藤 猛 宮野 奈津美 石郷岡 悠人	所 属	専任教員 みさと診療所 すこやか横手 訪問看護リハビリステー ションあじさい 平鹿調剤薬局中央店
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 地域で暮らす対象及び生活の基盤である暮らしを支援する専門職の役割と多職種の連携協働について学ぶ			
授業の形式 主として講義形式で行う			
成績評価の基準等 出席、テスト、授業への参加態度、課題学習に向かう姿勢を総合的に評価する			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	地域で活動する看護職の理解 地域で活動する多職種 の理解（訪問活動を実 践する各専門職の役割 と実践）	地域保健活動における保健師の役割	①②
第 2 回		地域医療を担う医師の役割、訪問診療活動、在宅 看取りの実際	
第 3 回			
第 4 回		介護保険制度をマネジメントする介護支援専門員 の役割、支援内容及び活動の実際	
第 5 回		訪問リハビリにおける理学療法士の役割、支援内 内容及び活動の実際	
第 6 回		訪問リハビリにおける作業療法士の役割、支援内 内容及び活動の実際	
第 7 回		地域医療を担う薬剤師の役割、支援内容及び活動 の実際	
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

地域・在宅看護論【地域・在宅看護技術】

担当教員	大坂 美穂 佐々木 康子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 暮らしにおける対象の健康問題を支援する援助方法を習得する。			
授業の形式 主として課題学習、演習形式で行う。演習については講義を行う。			
成績評価の基準等 出席・課題学習・レポート・授業態度・発表・演習の状況などから総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤	医学書院
②	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践	医学書院
③	写真でわかる訪問看護 アドバンス	インターメディカ

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	清潔援助体験演習	演習オリエンテーション	①②③
第2回		体験学習	
第3回			
第4回	ケアマネジメントの実際	1)ケアマネジメントについて 2)在宅サービスの種類と費用	
第5回	ケアマネジメント演習	1)ケアプラン作成演習 ペーパーペイシエント	
第6回		2)記録用紙の説明 3)個人・グループワーク	
第7回		4)発表	
第8回	地域・在宅看護での 看護過程の特徴	訪問看護過程演習オリエンテーション	①②③
第9回	看護過程演習	1)看護過程の展開 ペーパーペイシエント(難病・終末期・ 小児)を用いた事例展開	
第10回		2)記録用紙の説明(臨地実習記録用紙)	
第11回		個人・グループワーク	
第12回		3)発表	
第13回			
第14回	地域・在宅における看護活動	1)地域・在宅看護の課題学習・発表	
第15回		2)地域・在宅看護論のまとめ	

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

健康状態別看護【経過別看護Ⅰ(急性期・周手術期・生活再構築看護援助論)】

担当教員	菅村 聡子 金子利恵 高橋 千春	所 属	専任教員 平鹿総合病院 〃
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的	1) 急性期または手術療法を要する患者とその家族への看護について学ぶ。 2) 生活機能障害を持ち生活を再構築する人とその家族への看護について学ぶ。		
授業形式	主として講義形式で行い、グループワークも行う。③		
成績評価の基準	出席・テストを総合的に評価する。		

【教科書①②③④・参考図書⑤】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 専門 臨床看護総論	医学書院
③	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学	医学書院
④	系統看護学講座 専門 成人看護学総論	医学書院
⑤	新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護	メヂカルフレンド社

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回	急性期・周手術期にある患者の看護	1. 急性期・周手術期にある対象の理解 2. 急性期看護の概念と特徴 3. 周手術期看護の概念と特徴 4. 様々な手術療法を受ける患者の看護	①② ③④
第5回 第6回	集中治療を受ける患者の看護	ICUにおける看護の概要	①③
第7回	検査と看護	ME機器と看護	②
第8回 第9回 第10回	リハビリテーションと看護	1. 生活の再構築を必要とする対象の理解 2. リハビリテーション看護を必要とする患者・家族の特徴 3. 経過別リハビリテーションと看護 4. 生活者としての対象を支えるリハビリテーション 5. 療養生活を支える家族への援助	①② ④
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

健康状態別看護【経過別看護Ⅱ(慢性期・終末期看護)】

担当教員	菅村 聡子 清水 真理子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(20時間)
履修の目的			
1)慢性期疾患の特徴を理解し、患者と家族が疾患とともに生活していくことを支えるための看護について学習する。			
2)終末期にある患者とその家族のQOLの維持・増進を目指した援助、看取りの看護について学ぶ。			
授業形式 主として講義形式で行い、グループワークも行う。			
成績評価の基準 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 臨床看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 専門 老年看護学	医学書院
③	系統看護学講座 専門 成人看護学総論	医学書院
④	成人看護学 緩和・ターミナルケア	ヌーヴェルヒロカワ

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	慢性期における看護	1. 慢性期とは 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助	①②③
第6回 第7回 第8回 第9回 第10回	終末期における看護	1. 終末期とは 2. 終末期の患者のニーズ 3. 終末期にある患者の看護援助	①②③④
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

成人看護学【成人看護学概論】

担当教員	金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15 時間)
履修の目的 成人期にある対象の特徴を理解し、対象の健康に影響する因子と健康を維持増進するための看護の役割を学ぶ。			
授業形式 主として講義形式で行い、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準 出席・テスト・課題提出を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 成人看護学総論	医学書院
②	国民衛生の動向	厚生統計協会

【授業計画】

回	履修主題	履修内容	教科書
第1回	成人期にある対象の理解	1. 成人の生活 1) 大人になること 2) 働いて生活を営むこと	①②
第2回		2. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 成人の健康の状況 3) 健康の維持・増進を旨とした生活 4) 保健・医療・福祉システム	
第3回	成人への看護アプローチの基本	1. 大人の健康行動のとらえ方 2. 行動変容を促進する看護アプローチ 3. 意思決定支援 4. 家族支援	
第4回	成人のヘルスプロモーションと看護	1. ヘルスプロモーション 2. 個人の主体的な健康づくり 3. 健康増進のための環境づくり 4. ストレスと健康生活 5. 就業・労働形態の変化と健康問題 6. 生活行動と健康問題 7. 生活環境衛生と健康 8. 成人がかかえる新たな健康問題	
第5回			
第6回			
第7回			
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

成人看護学【成人看護学援助論Ⅰ】

担当教員	菅村 聡子 齋藤 真由美 鍛冶 優子 前田 麻友子 小田島 純子 大日向 久美子	所 属	専任教員 平鹿総合病院 〃 〃
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	成人期の健康障害(循環機能障害、内部環境調節機能障害、運動機能障害)の特徴と健康障害をもつ成人とその家族への看護について学ぶ。		
授業形式	主として講義形式で、グループワークも行う。		
成績評価の基準	出席・テスト・提出課題を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 循環器	医学書院
②	系統看護学講座 専門 腎・泌尿器	医学書院
③	系統看護学講座 専門 内分泌・代謝	医学書院
④	系統看護学講座 専門 運動器	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	循環機能障害を もつ患者の看護	循環機能障害をもつ人の看護 虚血性心疾患、心リハ、心電図	①
第 2 回			
第 3 回			
第 4 回			
第 5 回			
第 6 回	内部環境調節障害 をもつ患者の看護	内部環境調節障害をもつ人の看護 慢性腎不全・人工透析・CAPD	②
第 7 回			
第 8 回			
第 9 回	内分泌・ 代謝機能障害をも つ患者の看護	内分泌・代謝機能障害をもつ人の看護 糖尿病、甲状腺	③
第 10 回			
第 11 回	運動機能障害をも つ患者の看護	運動機能障害をもつ人の看護 骨折・切断・脊髄損傷患者の看護 牽引・ギプス固定を受けている人の看護	④
第 12 回			
第 13 回			
第 14 回			
第 15 回			
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

成人看護学【成人看護学援助論Ⅱ】

担当教員	清水 真理子 畠山 知奈美 内藤 真奈美	所 属	専任教員 平鹿総合病院 〃
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	成人期の健康障害(消化・吸収機能障害、排泄機能障害、免疫機能障害)の特徴と健康障害をもつ成人とその家族への看護について学ぶ。		
授業形式	主として講義形式で行い、グループワークも行う。		
成績評価の基準	出席・テスト・提出課題を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 消化器	医学書院
②	系統看護学講座 専門 腎泌尿器	医学書院
③	系統看護学講座 専門 アレルギー・膠原病・感染症	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	消化・吸収機能障害をもつ患者の看護	消化吸収機能、肝機能障害をもつ人の看護 消化吸収機能、肝機能障害(胃がん、食道がん、大腸がん、肝臓がん、肝硬変)患者の看護 検査・治療をうける患者の看護	①
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回	排泄機能障害をもつ患者の看護	皮膚・排泄障害をもつ人の看護 ストーマ(結腸・尿路系ストーマ)、スキントラブル、皮膚創傷処置 褥瘡	①②
第9回			
第10回			
第11回			
第12回	アレルギー、膠原病、感染症患者の看護	アレルギー、膠原病、感染症患者の看護 感染症分類、法律(感染症法) 結核、HIV、アレルギー、SLE、RAをもつ人の看護	③
第13回			
第14回			
第15回			
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

担当教員	清水 真理子 高橋 聡	所 属	専任教員 平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 成人期の健康障害(換気機能障害、造血機能障害)の特徴と健康障害をもつ成人とその家族への看護について学ぶ。			
授業形式 主として講義形式で行い、グループワーク、演習も取り入れ学習する。			
成績評価の基準 出席・テスト・提出課題を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 呼吸器	医学書院
②	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論	医学書院
③	系統看護学講座 別巻 がん看護	医学書院
④	系統看護学講座 専門 血液・造血液	医学書院
⑤	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	医学書院

【授業計画】

回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	呼吸機能障害をもつ 患者の看護	呼吸機能障害をもつ患者の看護 (肺がん、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全) がん患者に対する看護の実際	①②③
第 2 回			
第 3 回	血液・造血器機能障害をも つ患者の看護	血液・造血器機能障害をもつ患者の看護 (白血病、悪性リンパ腫)	③④
第 4 回			
第 5 回	放射線治療・検査と看護	放射線治療と看護 X線撮影、CT、MRI、核医学検査、血管造影、IVR、 超音波検査、放射線事故	⑤
第 6 回			
第 7 回			
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

成人看護学【成人看護学援助論Ⅳ(がん看護)】

担当教員	武石優子 奥山奈穂子	所 属	平鹿総合病院
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的	がん患者とその家族の特徴を理解し、がんとともに生きる患者および家族への看護援助方法について学ぶ。		
授業形式	主として講義形式で行い、グループワークも行う。		
成績評価の基準	出席・テスト・提出課題を総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 別巻 がん看護学	医学書院
②	系統看護学講座 専門 血液・造血液	医学書院

【授業計画】

回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	がんおよびがん患者の 理解と基本的アプローチ	1)がんの動向と病態の特殊性 2)がん医療および治療の特殊性 3)がん患者の心理・社会的な特徴、危機への介入	①②
第 2 回	がん患者に対する 看護の実際	1) 特殊な治療に伴う看護 (1)放射線療法を受ける患者の看護 (2)化学療法を受ける患者の看護	①
第 3 回		2) 主な疾患と看護 乳がん、泌尿器がん	
第 4 回			
第 5 回		3) 身体的苦痛と援助 疼痛マネジメント、リラクゼーション、マッサージ	①②
第 6 回		4) 心理・社会的苦痛と援助 5) 主な疾患と看護	
第 7 回		血液のがん、全人的苦痛に対する看護、・グリーフ ケア、脳死	
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

担当教員名	清水 真理子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 成人期の対象の健康上の問題解決に向けた看護技術を習得する。			
授業の形式 主として演習、講義形式で行いグループワークも行う。			
授業評価の基準等 出席・演習への参加状況・提出課題を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	周手術期にある患者の各期の援助	1. 学習のすすめかた	①②
第2回		2. 事例紹介	
第3回		1)術前、術後、回復期の援助 個人ワーク	
第4回		グループワーク 2)グループ発表	
第5回	技術演習	1. 術前の看護 1)手術前オリエンテーション	
第6回		2)バイタルサインズ測定	
第7回		2. 術直後の看護 1)術後観察	
第8回		2)挿入物、装着物の観察(ドレーン、カテーテル類、酸素、膀胱留置カテーテル)	
第9回		3)挿入物、装着物のある患者の体位変換	
第10回		4)臥床での含嗽介助	
第11回		3. 術後第1病日の看護 1)ベッド上での口腔ケア	
第12回		2)安全な離床、車椅子移送	
第13回		3)ドレーン挿入中の清潔ケア、寝衣交換	
第14回		4)膀胱留置カテーテル挿入中の陰部洗浄	
第15回		4. 術後回復期の看護 1)生活指導のパンフレット作成	
		5. 退院後の生活指導 1)日常生活習慣の見直しと指導	

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

老年看護学【老年看護学概論】

担当教員	金子 利恵	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的 老年期にある対象の特徴を理解し、対象の健康に影響する因子と健康を維持・増進するための看護の役割を学ぶ。			
授業形式 主として講義形式で行う。			
成績評価の基準等 出席・テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 老年看護学	医学書院
②	国民衛生の動向	厚生統計協会

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	老年期の理解	1. 老いとは	①②
第2回		2. ライフステージとしての老年期 3. 加齢に伴う身体的変化、心理的变化、社会的変化	
第3回	超高齢社会の統計的輪郭	1. 超高齢社会の現況 2. 高齢者の健康状態 3. 高齢者の暮らし 4. 高齢者と家族	①②
第4回	高齢社会の保健医療福祉 介護保険制度	1. 保健・医療・福祉の動向	①②
第5回		2. 高齢者の保健活動 3. ソーシャルサポートシステム 4. 介護保険制度	
第6回	高齢者の 人権と倫理問題	1. 高齢者の差別 2. 高齢者の虐待 3. 高齢者の身体拘束 4. 高齢者の権利擁護	①②
第7回	老年看護のなりたち	1. 老年看護のなりたち 2. 老年看護の役割 3. 老年看護における理論の活用	①②
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

老年看護学【老年看護学援助論】

担当教員	金子 利恵 伊藤 恵 佐藤 美加子	所 属	専任教員 横手興生病院
対象学年/開講時期	第 2 学年/前期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 老年期の健康障害の特徴とその家族への援助方法を学ぶ			
授業の形式 主に講義形式と演習を行い、視聴覚教材も活用する			
成績評価の基準等 出席・テスト・講義中の態度・課題を総合的に評価する			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 老年看護学	医学書院
②	系統看護学講座 専門 老年看護病態・疾患論	医学書院
③	写真でわかる高齢者ケア	インターメディアカ

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	高齢者の アセスメント	1. 身体に加齢変化とアセスメント	①②③
第 2 回		1) 食生活 摂食・嚥下障害、低栄養、誤嚥性肺炎	
第 3 回		2) 排泄 排泄障害(排尿障害・排便障害)	
第 4 回		3) 睡眠 (睡眠の障害、生活リズムの変調)	
第 5 回		4) 清潔	
第 6 回		5) 基本動作と環境 (転倒、廃用症候群)	
第 7 回		6) 高齢者のコミュニケーション (失語症・構音障害含)アセスメントとケア	
第 8 回	身体症状と看護	7) セクシュアリティ・社会参加への看護	①②③
第9回	疾患を持つ高齢者 の看護	1)痛み 2)倦怠感 3)発熱 4)脱水 5)フレイル	①②③
第10回		感覚障害、骨粗鬆症、骨折患者の看護	①②③
第11回		脳血管障害、パーキンソン病患者の看護	①②③
第12回		認知症患者の看護	①②③
第13回			
第14回			
第15回			
修了試験			

老年看護学【老年看護技術】

担当教員	金子 利恵	所 属	専任教員
------	-------	-----	------

	遠藤 孝子		
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 老年期におけるQOL維持のための援助方法を学ぶ			
授業の形式 体験型学習・講義・課題学習・事例検討を行う			
成績評価の基準等 出席・課題学習・レポート・体験型学習・講義を総合的に評価する			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 老年看護学	医学書院
②	系統看護学講座 専門 老年看護病態・疾患論	医学書院
③	写真でわかる高齢者ケア	インターメディカ

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	高齢者疑似体験	加齢に伴う身体・心理・社会的変化	①②③
第2回			
第3回			
第4回	保健指導と教育	高齢者への教育・指導の実際	①②③
第5回			
第6回	高齢者の口腔ケア	演習	①②③
第7回	看護過程の展開	グループワークと個人学習・発表	①②③
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

小児看護学【小児看護学概論】

担当教員	大坂 美穂	所 属	専任教員
------	-------	-----	------

対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間)	1単位(15時間)
履修の目的 1. 小児各期の特徴と各期の発達課題を理解する 2. 小児の健康に影響する因子と成長発達を促進するための小児看護の特徴と役割を理解する			
授業の形式 主として講義形式で行う。			
授業評価の基準等 出席、テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書名	発行所
①	系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院

【授業計画】

回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 小児看護の特徴と理念	小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族を取り巻く社会の変化	①
第2回		小児医療・小児看護の変遷 小児看護における倫理 小児看護の課題と児童虐待	①
第3回 第4回	子どもの成長と発達	子どもの成長・発達の原則 小児の身体的発達と情緒と認知の発達	①
第5回		小児各期の発達課題と関わり方の基本 エリクソンの発達課題	①
第6回	小児の免疫と予防接種	小児の免疫 予防接種の概要	①
第7回	小児保健	小児保健の動向 保健・福祉行政 乳幼児健康診査 学校保健	①
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

小児看護学【小児看護学援助論Ⅰ】

担当教員	佐藤 姫子 鎌田 奈都子	所 属	平鹿総合病院 専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 1.小児期に特徴的な疾患についてその概念と病態について理解する 2.小児の成長発達をふまえ、小児と家族に必要な援助方法を理解する 3.小児に特徴的な健康障害に対し、必要な援助方法を理解する			
授業の形式 主として講義形式で行い、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席、テスト(2回)を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 先天異常 新生児の疾患・低出生児の病態	低出生体重児・代謝異常・染色体異常	②
第 2 回	代謝性疾患 アレルギー疾患	糖尿病・アセトン血性嘔吐症 アトピー性皮膚炎・気管支喘息	②
第 3 回	感染症 呼吸器疾患 循環器疾患	ウイルス感染症・細菌感染症 肺炎 川崎病・乳幼児突然死症候群	②
第 4 回	循環器疾患	心室中隔欠損・心房中隔欠損・ 動脈管開存症・ファロー四徴症・心筋炎	②
第 5 回	消化器疾患	口唇裂・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、 ヒルシュスプルング病、鎖肛、鼠径ヘルニア	②
第 6 回	血液疾患 悪性新生物	血友病・突発性血小板減少性紫斑病・ 白血病・神経芽細胞腫・網膜芽細胞腫	②
第 7 回	腎・泌尿器疾患	急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群	②
第 8 回	神経疾患 運動器疾患	小児てんかん・熱性けいれん・脳性麻痺 先天性股関節脱臼	②
第 9 回	精神障害	注意欠陥多動障害・精神遅滞・心身症・ 神経性習癖・幼児自閉症	②
第10回	小児救急	誤飲・熱傷・溺水・心肺蘇生	②
修 了 試 験			
回 数	履修主題	履修内容	教科書
第11回	ガイダンス	ガイダンス・小児に特徴的な健康障害	①②

		家族看護・小児の療養生活	
第12回	子どもの遊びの意義と発達	遊びの意義と発達	①②
第13回	子どもの栄養	子どもの栄養と意義 発達段階別の栄養の特徴と看護	①
第14回 第15回	フィジカルアセスメント	1)コミュニケーション 2)バイタルサインの測定と身体計測	①②
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

担当教員	鎌田 奈都子 進藤 夏子 佐藤 夏美	所 属	専任教員 秋田県立医療療育センター
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 1.小児期の成長発達をふまえ、小児と家族に必要な援助方法を理解する 2.小児に特徴的な健康障害に対し、必要な援助方法を理解する			
授業の形式 主として講義形式で行い、視聴覚教材も活用する。			
成績評価の基準等 出席、テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	様々な状況にある子どもと 家族の看護	1) 外来診察・入院を必要とする子どもと家族の看護 2) 検査や処置を受ける子どもと家族の看護	①②
第 2 回		1) 手術を受ける子どもと家族の看護 2) プレパレーション 与薬、輸液、採血	①②
第 3 回		1) 救急における子どもと家族の看護 2) 事故・外傷	①②
第 4 回		1) 終末期の子どもと家族の看護	①②
第 5 回	症状別看護	1) 発熱、脱水、発疹	①②
第 6 回		2) 痛み、呼吸困難	①②
第 7 回		3) 嘔気、嘔吐、けいれん	①②
第 8 回	新生児の看護	1) 低出生体重児の看護 2) NICU看護	①②
第 9 回	代謝疾患の患児の看護	1) 食物アレルギー患児の看護 2) I 型糖尿病患児の看護	①②
第10回	腎・泌尿器疾患患児の看護 小児ガン患児の看護	1) ネフローゼ疾患患児の看護 2) 小児ガン患児の看護	①②
第11回	免疫・アレルギー性疾患患児 の看護	気管支喘息患児の看護	①②
第12回	循環器疾患患児の看護	川崎病患児の看護	①②
回 数	履修主題	履修内容	教科書
第13回	活動制限のある患児の看護	隔離・安静・固定・抑制中の患児の看護	①②

第14回	神経・精神疾患患児の看護	1) 重症心身障害児の看護 2) 発達障害と看護	①②
第15回	児童虐待	被虐待症候群患児の看護	① ②
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

小児看護学【小児看護技術】

担当教員	大坂 美穂 小山 悦子	所 属	専任教員 医療療育センター
------	----------------	-----	------------------

対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
履修の目的 小児看護に必要な援助技術を習得する。			
授業の形式 講義・演習を行う。			
成績評価の基準 出席・レポート・授業に向かう姿勢を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論	医学書院
②	系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション	①②
第 2 回	小児の栄養	離乳食の実際	①②
第 3 回 第 4 回	小児と遊び	病院における遊びの効果と重要性 遊びの体験、ロールプレイ	①②
第 5 回	小児とのコミュニケーション	絵本の読み聞かせ体験	①②
第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回	育児支援の実際	1) 育児に関する不安への支援 2) 小児の福祉・療育・教育に関する施設 グループワークと発表	①②
第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回	看護過程の展開	事例を用いて、 1) 個人ワーク 2) グループワーク 3) ケースカンファレンス	①②
第 15 回	活動制限に対する看護	体験学習 1) シーネ固定の実際 2) サークルベッドの取り扱い	①②

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

母性看護学【母性看護学概論】

担当教員	進藤 夏子	所 属	医療療育センター
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)

履修の目的
1) 母性の概念と女性のライフサイクルにおける母性各期の特徴を理解する。
2) 人間の性と生殖・種族保存について理解する。
3) 母性の機能・役割を理解し、母性における健康問題と保健活動を学ぶ。
授業の形式 主として講義で行い、視聴覚教材も活用する。
成績評価の基準等
出席・授業態度・テストの取り組み状況を総合的に評価する。

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護学テキスト NICE 母性看護学 I 概論・ライフサイクル	南江堂

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 母性看護学とは 親になること	1) 母性の定義 2) 母性看護の概念、成り立ちと変遷 3) 親になる過程(プロセス)	①
第 2 回	母性看護学の基盤となる理論と概念	1) セクシュアリティ 2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 3) 性と生殖をめぐる課題と倫理	①
第 3 回	母子保健統計と社会資源	1) 母子保健統計 2) 母子に関わり法律と社会資源	①
第 4 回 第 5 回	生殖に関する形態機能と ライフサイクル	1) 性周期 2) 生殖器の形態と機能	①
第 6 回 第 7 回	ライフサイクルにおける 性と生殖をめぐる健康支援	1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期	①
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

母性看護学【母性看護学援助論 I】

担当教員	高橋 和江 鎌田 奈都子	所 属	平鹿総合病院 専任教員
------	-----------------	-----	----------------

対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	1) 周産期異常の原因、症状、治療について学ぶ 2) 妊娠期の母児の生理的経過を知り、母児に必要な援助方法を理解する 3) 妊娠期における異常に対して、必要な援助方法を理解する		
授業の形式	講義、課題学習(グループワーク)形式で行い、視聴覚教材も活用する。		
成績評価の基準等	出席・課題学習・レポート・授業態度・テスト(2回)・発表等で総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護学テキスト NICE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践	南江堂
②	カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術	医歯薬出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 妊娠期における看護	1) 妊娠のメカニズム	①
第 2 回		2) 胎児の成長・発達 3) 胎児付属物の構造と機能	①
第 3 回 第 4 回		4) 妊婦の身体的変化・心理社会的変化	①
第 5 回 第 6 回		5) 妊婦と胎児のアセスメント	①
第 7 回		6) 妊婦への援助	①
第 8 回		7) 周産期の女性が受ける母子保健サービス	①
第 9 回		8) ハイリスク妊婦への看護 妊娠悪阻、切迫流・早産妊婦、 妊娠高血圧症候群、糖代謝異常妊婦	①
第 10 回		周産期に子どもを 亡くした女性と家族への 援助	1) 周産期の喪失と悲嘆の特徴 2) 周産期の喪失が家族に及ぼす影響 3) 両親へのケア
修 了 試 験			
第 11 回	周産期の異常(疾患)	1) 妊娠期の異常	①②
第 12 回		2) 分娩期の異常	
第 13 回		3) 産褥期の異常	
第 14 回 第 15 回		4) 新生児の異常	
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

母性看護学【母性看護学援助論Ⅱ】

担当教員	鎌田 奈都子	所 属	専任教員
------	--------	-----	------

対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的	1) 周産期の母児の生理的経過を知り、母児に必要な援助方法を理解する。 2) 周産期における母児の異常に対して、必要な援助方法を理解する。 3) 婦人科疾患の特徴と、疾患をもつ女性とその家族に必要な援助方法を理解する。		
授業の形式	講義、演習、課題学習(グループワーク)形式で行い、視聴覚教材も活用する。		
成績評価の基準等	出席・課題学習・レポート・授業態度・テスト(1回)で総合的に評価する。		

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護学テキスト NICE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践	南江堂
②	系統看護学講座 専門 女性生殖器疾患患者の看護	医学書院
③	カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術	医歯薬出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	分娩期における看護	1) 分娩の経過	①
第2回		2) 産婦の身体的変化・心理社会的変化	①
第3回		3) 分娩が胎児に及ぼす影響	①
第4回		4) 産婦・胎児のアセスメント 5) 産婦への援助	①
第5回		6) 分娩期の正常からの逸脱と看護 娩出力の異常、周産期の異常出血、 遷延分娩、帝王切開術	①
第6回	産褥期における看護	1) 褥婦の身体的変化	①
第7回		2) 褥婦の心理社会的変化	①
第8回 第9回		3) 褥婦のアセスメントと援助	①
第10回		4) 褥婦の正常からの逸脱と看護 子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、 排尿障害と尿路感染、育児不安、 マタニティブルーと産後精神障害	①
第11回	新生児の看護	1) 新生児の特徴と子宮外環境への適応過程	①③
第12回		2) 新生児のアセスメント	①③
第13回		3) 新生児への援助	①③
第14回		4) 新生児の健康問題と看護 新生児仮死、低出生体重児、呼吸障害、胎 便吸引症候群、新生児黄疸、低血糖	①③
第15回	婦人科疾患の看護	1) 婦人科疾患の看護	②
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

母性看護学【母性看護技術】

担当教員	鎌田 奈都子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)

履修の目的
周産期における母児の看護に必要な援助方法を習得する。
授業の形式
講義、課題学習(グループワーク)、演習形式で行う。
成績評価の基準等
出席・課題学習・レポート・授業態度・発表・演習状況・事例における看護計画の立案状況等で総合的に評価する。

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	看護学テキスト NICE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践	南江堂
②	カラー写真で学ぶ 新生児の観察と看護技術	医歯薬出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション	①②
第2回	周産期における 保健指導	1) 妊婦健康診査	①②
第3回 第4回		2) 妊娠期の保健指導(GW)	①②
第5回 第6回		3) 母乳育児支援	①②
第7回		4) 新生児の看護技術演習 オリエンテーション 全身の観察、児の抱き方、更衣、 おむつ交換、沐浴	①②
第8回 第9回		5) 産褥期の保健指導(見学)	①②
第10回 第11回 第12回	事例における 看護計画の立案	6) ケースカンファレンス 個人演習・グループワーク	①②
第13回 第14回 第15回	周産期における 看護技術	7) 個人看護技術演習 妊婦の外診、妊婦体験、沐浴、 新生児の計測、調乳	①②

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

精神看護学【精神看護学概論】

担当教員	佐々木 久長	所 属	秋田大学大学院医学系研究科
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数(時間数)	1単位(15 時間)

履修の目的	健康な心の発達と機能を理解し、心の健康を維持するための保健活動について学ぶ。
授業の形式	主として講義形式で行い、課題学習やグループワークを行う。
成績評価の基準等	出席、授業への参加度、課題学習への取り組み状況、テストを総合的に評価する。

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 精神看護の基礎	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 精神保健とは こころの健康とは	1)精神保健の定義、領域 2)現代社会と精神保健 3)こころとは、こころの構造と機能 4)こころの健康に及ぼす要因	①
第 2 回	こころの発達	1)こころの発達理論 2)自我の構造と機能、自我同一性 3)不安と防衛機制	①
第 3 回	ストレスと危機	1)ストレスとは、精神危機とは 2)危機とこころの発達 3)危機のプロセスと看護介入 4)ストレスマネジメント	①
第 4 回	ライフサイクルと精神保健	1)各期におけるこころの健康保 2)ライフサイクルと危機	①
第 5 回	生活の場と精神保健	1)環境とこころの健康 2)地域精神保健の動向 3)地域・職場におけるこころの健康	①
第 6 回	臨床の場における こころの健康	1)医療の場とこころの健康 2)精神的アプローチの実際 3)災害被災者の精神保健 4)リエゾン精神看護 5)看護者のメンタルヘルスと対応	①
第 7 回	現代社会とメンタルヘルス	1)現代社会とこころの健康 2)薬物依存症、犯罪・非行 3)虐待・いじめ、自殺と自殺予防	①
修了試験			

精神看護学【精神看護学援助論Ⅰ】

担当教員	安部 俊一郎 藤嶋 敏一	所 属	横手興生病院
------	-----------------	-----	--------

	小泉 健太郎 榊田 理恵 小林 穰 佐藤 甫 松澤 友斗 松田 陽一		
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 精神疾患に関する基礎知識を理解し、病態、症状、治療を学ぶ。 医療現場における心理支援の基礎となる臨床心理について、理論・技法の知識を学ぶ。			
授業の形式 主として講義形式である			
成績評価の基準等 出席、テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 精神看護の基礎	医学書院
②	系統看護学講座 専門 精神看護の展開	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回	精神障害の診断と治療	1) 精神療法、作業療法 主な検査法 電気けいれん療法 2) 薬物療法	①②
第3回	主な精神疾患の理解	1) 統合失調症	①②
第4回		2) 気分障害	
第5回 第6回		3) 神経症性障害 摂食障害 人格障害 4) ストレス反応と適応障害、心身症 5) 器質性精神障害 精神作用物質による精神や行動の障害 てんかん	
第7回	主な精神症状の理解	1) 不安、抑うつ状態、引きこもり、 記憶障害、睡眠障害 器質性精神障害	①②
第8回		2) 幻覚・妄想状態、せん妄状態、 興奮状態、攻撃、拒否・拒絶	
第9回	老年期の精神医療	1) 老年期精神医療の現状 2) 認知症	①②

第 10 回	精神医療福祉の現状と課題	1) 精神科救急医療 2) 身体合併症医療 3) 司法精神医療	①②
第 11 回	心理的援助とは	倫理と構造・治療の流れ 信頼性と妥当性、効用と限界	①②
第 12 回	面接の方法①	精神分析と分析心理学 来談者中心療法、交流分析 行動療法、認知行動療法	
第 13 回	面接の方法②	システムアプローチ、家族療法 グループアプローチ、森田療法 芸術療法、遊戯療法、他	
第 14 回	心理アセスメントの方法と各領域	発達段階別にみる病とその対応 児童虐待・PTSD・大人の発達障害	
第 15 回			
修了試験			

精神看護学【精神看護学援助論Ⅱ】

担当教員	珍田 悦子 高橋 真人	所 属	専任教員 横手興生病院
------	----------------	-----	----------------

対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 心の健康障がいの特徴と健康障がいを持つ対象と家族への援助方法を学ぶ			
授業の形式 主として講義形式で行い、視聴覚教材も活用する			
成績評価の基準等 出席、課題(内容・提出)、学習への取り組み状況、テストを総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 精神看護の基礎	医学書院
②	系統看護学講座 専門 精神看護の展開	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス 精神看護の考え方	1) 精神看護の目的と対象の特徴 2) 精神看護学の位置付け・定義・範囲・目的・構造 3) 人間のこころと行動	①②
第2回	精神看護における 対象の理解	1) 援助におけるアセスメントの視点 2) 治療の場の人間関係	①②
第3回	入院環境と治療的アプローチ	1) 治療環境としての精神科病棟の特徴 2) 治療的環境とは	①②
第4回	精神症状による生活 障害と看護	1) 不安状態 2) 幻覚妄想状態 3) せん妄	①②
第5回		4) 引きこもり状態 5) 意欲減退状態 6) 躁状態 7) 抑うつ状態	①②
第6回		8) 興奮状態 9) 強迫症状, 強迫行為 10) 食行動にまつわる症状	①②
第7回		11) 依存症状 12) 不眠症状 13) 認知症による症状	①②
第8回		1) 患者とその家族の関係 2) 家族にみられる状況 3) 家族の役割と家族の回復	①②
第9回	精神看護におけるケアの方法	1) 治療的関わり	

第 10 回		2) 日常生活行動の援助	①②
第 11 回		3) 服薬治療にかかわる援助	
第 12 回	精神看護の看護過程	1) 精神看護に活用される看護理論 2) 精神看護の特性と看護師の役割	①②
第 13 回		3) 看護過程の展開	
第 14 回			
第 15 回	精神保健医療福祉と 看護の歴史と現状	1) 精神保健医療福祉と看護の歴史的変遷 2) 精神障がい及び精神障がい者の理解 3) 精神保健医療福祉の法制度の変遷	①
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

精神看護学【精神看護技術】

担当教員	珍田 悦子 高橋 真人 谷本 歩	所 属	専任教員 横手興生病院 〃
------	------------------------	-----	---------------------

	佐藤 篤		リハビリテーション・精神医療センター
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 精神に障がいを持つ人々の問題を解決するための援助方法を習得する			
授業の形式 主として課題学習、演習形式で行う。又、演習に際して、講義も行う			
成績評価の基準等 出席、課題・学習への取り組み、演習参加状況、小テスト、授業に臨む姿勢・態度を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 精神看護の基礎	医学書院
②	系統看護学講座 専門 精神看護の展開	医学書院

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	ガイダンス	1)精神看護における技術とは 2)課題／演習オリエンテーション	①②
第2回 第3回 第4回	精神看護におけるコミュニケーション技法	1)コミュニケーション技術 2)自己の振り返り、自己洞察 3)プロセスレコードの活用	①②
第5回	臨床における倫理①	1)看護の倫理と人権擁護 2)行動制限 3)安全管理	①②
第6回 第7回	臨床における倫理②	1)身体拘束体験演習 2)グループワーク	①②
第8回	社会復帰に向けての援助の実際①	1)精神医療におけるリハビリテーションの考え方 2)作業療法の実際	①②
第9回 第10回	社会復帰に向けての援助の実際②	1)精神保健福祉法と社会復帰支援 2)地域精神保健活動における社会資源 3)精神保健医療福祉の連携と看護の機能	①②
第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	看護過程の展開	1)看護理論を用いた看護過程 2)アセスメントの実際 3)グループワーク 4)指導計画 5)発表	①②

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

看護の統合と実践【医療安全Ⅰ】

担当教員名	清水 真理子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第2学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 医療安全の基礎的知識を学ぶ。			

授業の形式	主として講義・演習を行う。
授業評価の基準等	出席・課題学習・授業態度・テスト等を総合的に評価する。

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 医療安全	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	ガイダンス 医療事故とは 看護師の責任と法の理解	1. 医療事故の現状と用語の定義 2. 看護業務と法の理解 3. 医療過誤と法的責任	①
第 2 回 第 3 回	ヒューマンエラーとは	1. ヒューマンエラーの定義 2. エラーのメカニズム 3. エラーと人間の特性 4. エラーの種類と対策	①
第 4 回 第 5 回	KYTとは	1. KYTの重要性 2. KYT4ラウンド法の進め方	①
第 6 回 第 7 回	インシデント報告	1. インシデント報告 2. 実習中のヒヤリハット共有	①
第 8 回	リスクマネジメントと 事故分析法	1. リスクマネジメントの考え方・プロセス 2. インシデント分析の種類と方法	①
第 9 回	看護における安全対策	1. 事故対策 2. 安全管理体制と医療安全文化の醸成	①
第10回 第11回 第12回 第13回 第14回	事例学習	グループワーク・発表	①
第15回	ま と め		①
修 了 試 験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です

看護の統合と実践【医療安全Ⅱ】

担当教員名	珍田 悦子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数 (時間数)	1単位 (15時間)
履修の目的	臨地実習中に体験したヒヤリハットを共有し、リスク感性を磨く		

	看護学生としての情報管理への意識を高める
授業の形式	領域別実習をもとにグループワーク(発表を含む)を行う
授業評価の基準等	出席・ヒヤリハットノート・授業態度・最終レポート・提出物を総合的に評価する

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 医療安全	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	ヒヤリハット体験の共有	領域別実習各クール終了時、学生が主体となって運営する。 1) グループ毎にクラスで共有したい1事例を選定し、提示(発表)する。 <発表内容> ① 何があったか ② 考えられる原因・要因 ③ 対策(どうすればよいか) 2) 各グループの発表に対して、質疑応答・意見交換を行う。	①
第8回	まとめ		

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

看護の統合と実践【災害・国際看護論】

担当教員	荻原 麻紀 兼子 義彦	所 属	日本赤十字秋田看護大学 秋田県立リハビリテーション・
------	----------------	-----	-------------------------------

	横手市消防本部 稲岡 一枝 新沼 剛		精神医療センター 横手市消防本部 日赤秋田県支部 日本赤十字秋田看護大学
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 国際保健の動向及び現状を学び、国際的視野で健康問題を捉え、国際保健医療協力・看護活動のあり方について考える。また、災害の概要について知り、緊急援助における看護の役割を理解する。			
授業の形式 主として講義・演習を行う。			
授業評価の基準等 試験・出席・レポート提出を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	系統看護学講座 専門 災害看護学・国際看護学	医学書院

【授業計画】

回 数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	災害看護論概論	1) 災害の定義・分類・段階 2) 災害が人々の健康に及ぼす影響 3) 災害医療・災害看護の歴史 4) 災害医療の基本的知識 5) 災害に関する法や制度、地域の防災計画	①
第 2 回	災害時におけるチーム医療	1) 災害派遣医療チーム(DMAT) 2) DMATにおける看護の機能と看護師の役割	①
第 3 回	災害医療における救急看護	1) 我が国の救急医療の現状 2) 救急医療における看護師の役割 3) 救急医療と災害医療	①
回 数	履修主題	履修内容	教科書

第4回	災害時の看護専門職者の 役割と機能 (急性期・亜急性期)	1)災害時の看護の役割と特色 2)緊急時の対応、トリアージ 3)災害の時期別の看護の特色 4)災害初期の避難所における看護活動 5)被災者の医療ニーズ	①
第5回	災害とメンタルヘルス	1)災害が及ぼす心理的影響と精神保健活動 の必要性と戦略 2)被災者に対するメンタルヘルスケア 3)救援者の受ける心理的影響とその対策 4)災害後のメンタルヘルスケア	①
第6回 第7回	災害看護技術 (応急処置・心肺蘇生)	1)災害看護技術演習① (CPR・AED・止血圧迫法) 2)災害看護技術演習② (小児のCPR・外傷の手当・搬送法・傷病者管理法)	①
第8回 第9回	災害時の生活支援技術	1)災害が人々の日常生活に及ぼす影響 2)災害時に役立つ日常生活援助技術 3)避難所生活者の自立支援技術 4)ボランティア活動の心得 5)資源の活用、支援ネットワーク	①
第10回	世界の現状を知る・想像する	1)国際看護の定義・目的・対象 2)世界の人々はどのような環境のもと、どのような生活をしているのか	普段から新聞・雑誌等の国際的ニュースの中で、特に人間の健康や環境に影響を与える出来事について情報を収集しておくこと。
第11回	持続可能な開発目標 (SDGs)①	1)SDGsの定義 2)SDGsの保健分野の目標 (妊産婦の健康、こどもの健康)	
第12回	持続可能な開発目標 (SDGs)②	1)SDGsの保健分野の目標 (感染性疾患、非感染性疾患、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)	
第13回	国際協力における保健医療 専門機関の役割・活動の実際	1)国連機関、政府系援助機関、赤十字、非政府組織(NGO)の役割と活動	
第14回	プライマリヘルスケア(PHC)	1)PHCの概念 2)ラクの物語の考察	
第15回	社会的マイノリティへの看護	1)在留外国人の健康問題と看護 2)性的マイノリティの方々の健康問題と看護	
修了試験			

看護の統合と実践【看護実践マネジメント】

担当教員	信太 喜代子 大塚 朱実	所 属	平鹿総合病院 専任教員
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的 1) 医療チームの一員として、看護を提供するシステムやキャリア形成等、看護師自身のマネージメントができる基礎的能力を見につける。 2) 実践した看護について理論や文献を活用して研究的視点で追求し、論文にまとめる。			
授業の形式 主として講義・演習を行う。			
成績評価の基準等 試験・出席・レポート提出を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理	メディカ出版

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 1 回	看護管理 看護実践マネジメント	1.看護管理とは 1) 看護管理とは 2) 管理プロセス 3) 看護管理の要素	①
第 2 回		4) 管理者の求められるスキル 2.看護管理の基盤となる知識 1) 組織とは 2) 組織におけるマネジメント	①
第 3 回		3) 看護サービス 4) 目標管理	①
第 4 回		3.看護実践におけるマネジメント 1) 看護室評価の要素 2) 人材育成 3) リーダーシップとメンバーシップ 4) 医療制度 5) 看護関連の法と制度 6) キャリア開発・継続教育 (認定・専門看護師)	①
第 5 回		4.看護管理の実際と課題	①
第 6 回			①
修 了 試 験			
授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	ケーススタディ	ガイダンス 研究テーマの選定方法 ケーススタディの書き方 発表の仕方 ケーススタディ発表	

*この科目は、実務経験のある教員による科目です

看護の統合と実践【実践看護技術】

担当教員	菅村 聡子 日沼 郁子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数(時間数)	1単位(30時間)
履修の目的			
1) 臨床でおこりうる多重課題に対応し、看護倫理を踏まえ、安全に看護を実践する能力を養う。			
2) 多職種と連携し、対象のQOLの向上を目指す方法について学ぶ。			
授業の形式 主として講義・演習を行う。			
成績評価の基準等 試験・出席・レポート提出を総合的に評価する。			

【参考図書】

番号	書 名	発行所
①	音楽療法ハンドブック 看護と福祉領域のための	星雲社

【授業計画】

授業回数	履修主題・履修内容	教科書
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回	1. ガイダンス 2. 事例検討 3. 多重課題演習 4. 臨床判断演習	
修了試験		
第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回	対象のQOLの向上を目指した援助 音楽療法概論 高齢者の音楽療法 発達障害児の音楽療法 発達障害者・精神障害者の音楽療法 医療現場・災害時における音楽療法 ワークショップ① ワークショップ②	
修了試験		

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

学生へメッセージ

音楽をツールとして考えてみませんか？音楽を聴いたとき心地よく感じたり不快に感じたり感覚では理解していることを、音楽の何がそう感じさせているのかを音楽療法の視点から知り、いろいろな場面での音楽の役立て方を一緒に考えてみましょう。

看護の統合と実践【看護倫理】

担当教員	菅村 聡子	所 属	専任教員
対象学年/開講時期	第3学年/前期	単位数(時間数)	1単位(15時間)
履修の目的			
1) 看護専門職として倫理的に判断し、行動するために必要な知識を学ぶ。 2) 看護の倫理的な課題の解決を通して、倫理的感受性や判断能力を養う。			
授業の形式 主として講義・演習を行う。			
成績評価の基準等 試験・出席・レポート提出を総合的に評価する。			

【教科書・参考図書】

番号	書 名	発行所
①	よくわかる看護の倫理綱領	照林社
②	新版 看護者の基本的責務 定義・概念・基本法・倫理	日本看護協会出版会

【授業計画】

授業回数	履修主題	履修内容	教科書
第1回	看護倫理についての基本的な知識	1. 看護倫理とはなにか 2. 倫理の歴史的変遷 3. 倫理原則と徳、ケアの倫理	①②
第2回	生命倫理と医療倫理の基礎	1. 倫理的問題の動向 2. 倫理的意思決定のプロセス 3. 倫理的な問題の分析 4. 倫理的問題へのアプローチ法 5. 事例検討	
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回	看護場面で遭遇する倫理的ジレンマ	1. 事例検討と倫理カンファレンス 2. 倫理的看護実践の検討	
修了試験			

*この科目は、実務経験のある教員による科目です。

臨地実習【基礎看護学実習Ⅰ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第1学年/後期	単位数	1単位
履修の目的 患者を尊重した関わりや援助の必要性について考え、看護を実践するための基礎的能力を養う。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 患者に応じた接し方が分かる。 2) 患者の基本的ニーズを知る。 3) 患者の基本的ニーズに応じた援助の必要性が分かる。 4) 見学や実施した援助を振り返ることができる。
実習内容 (詳細については実習要綱の「基礎看護学実習Ⅰ」を参照) 実習施設:平鹿総合病院 実習方法: 1) 患者1名を受け持ち、5日間の実習を行う。 2) 受け持ち患者を決める場合は、以下について考慮する。 (1) 成人期・老年期にある患者 (2) ある程度コミュニケーションが図れる患者 (3) 日常生活援助が必要な患者 (4) 急変の可能性の少ない患者 3) 毎日の行動計画を立て、それに基づいて実習する。 4) 毎日、カンファレンスを病棟で行う。 5) 実習終了後、学内で「実習のまとめ」を実施し、学びを共有する。

臨地実習【基礎看護学実習Ⅱ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第2学年/前期	単位数	2単位
履修の目的 対象の看護過程を展開する基本的能力を身につける。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 対象を把握し看護の必要性が判断できる。 2) 個別的な看護計画を立案できる。 3) 計画に基づき看護が実施できる。 4) 実践した看護を評価できる。 実習内容 (詳細については実習要綱の「基礎看護学実習Ⅱ」を参照) 実習施設: 平鹿総合病院 実習方法: 1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 受け持ち患者を決める場合は、以下について考慮する。 (1) 成人期・老年期にある患者 (2) ある程度コミュニケーションが図れる患者 (3) 日常生活援助が必要な患者 (4) 診療にともなう介助が必要な患者 (5) 急変の可能性が少ない患者 3) 毎日の行動計画を立て、それに基づいて実習する。 4) 毎日、カンファレンスを病棟で行い、中間頃にケースカンファレンスを行う。 5) 実習終了後、学内で「実習のまとめ」を実施し、学びを共有する。
--

臨地実習【地域・在宅看護論実習】

所属担当/教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 地域で暮らす人々とその家族に対する健康と暮らしを支える看護の役割を学ぶ。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 地域で暮らす人とその家族の暮らしを理解する。 2) 地域で暮らす人とその家族に対する看護の実際を理解する。 3) 地域で暮らす人の健康の保持・増進・疾病の予防のための方法を知る。 4) 地域包括ケアシステムにおける看護のあり方(継続看護)を理解する。 5) 多職種連携における看護職の役割を理解する。 実習内容(詳細については実習要綱の「地域・在宅看護論実習」を参照) 実習施設:各訪問看護ステーション、各居宅介護支援事業所、市町村 実習方法: 1) 各訪問看護ステーション (1) 6日間行う。 (2) 受け持ちケースで看護過程の計画を行う。 2) 居宅介護支援事業所 (1) 1日間行う。 3) 市町村実習 (1) 3日間行う。 (2) 各地域局、健康の駅、各地域包括支援センターで実習を行う。
--

臨地実習【成人・老年看護学実習Ⅰ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数	3単位
履修の目的 成人期・老年期にある対象の問題を理解し、疾病を持ちながら生きていく事を支える看護を实践できる			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 成人期・老年期にある対象の問題を理解し、その健康問題に応じた援助ができる 2) 成人期・老年期にある対象の QOL を高める関わり方ができる 3) 成人期・老年期にある対象の健康障害が、生活機能に及ぼす影響を理解できる 4) 対象の看護を通じて保健医療チームの一員としての役割を理解できる 実習内容(詳細については実習要綱の「成人・老年看護学実習Ⅰ」を参照) 実習施設:JA秋田厚生連 平鹿総合病院3はな・4はな・4もり・5はな・8はな・8もり病棟 独立行政法人国立病院機構 あきた病院 南北1. 2病棟 実習方法:JA秋田厚生連 平鹿総合病院 成人期・老年期にある患者を受け持つ { 病棟:10 日間 学内実習日半日 実習のまとめ(学内) 独立行政法人国立病院機構 あきた病院 病院見学(難病についての実習内講義を含む)、重症心身障害病棟 { 2 日間主に見学実習を行う 実習のまとめ(学内) ＊それぞれの実習前にオリエンテーションあり 実習配置: 実習配置表参照

臨地実習【成人・老年看護学実習Ⅱ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 急性期・周手術期にある成人期・老年期の対象を理解し対象に応じた看護が実践できる。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 成人期・老年期の発達課題と急性期・周手術期にある対象を理解できる。 2) 対象の健康に影響を及ぼす要因や生活習慣を理解できる。 3) 対象の健康問題を解決するための援助が実践できる。 4) 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 実習内容(詳細については実習要綱の「成人・老年看護学実習Ⅱ」を参照) 実習施設:JAあきた厚生連 平鹿総合病院 実習方法: 1) JAあきた厚生連 平鹿総合病院 病棟実習 (1) 9日間行う。 (2) 患者を1名以上を受け持ち、看護を実践する。 (3) ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを実施し学びを共有する。 2) 手術室 (1) 1日間行う。 3) 実習配置:実習配置表参照
--

臨地実習【成人・老年看護学実習Ⅲ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 回復期・慢性期にある成人期・老年期の対象を理解し対象に応じた看護が実践できる。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義でを使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 成人期・老年期の発達課題と回復期・慢性期にある対象を理解できる。 2) 対象の健康に影響を及ぼす要因や生活習慣を理解できる。 3) 対象の健康問題を解決するための援助が実践できる。 4) 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 実習内容(詳細については実習要綱の「成人・老年看護学実習Ⅲ」を参照) 実習施設:JAあきた厚生連 平鹿総合病院 実習方法: 1) JAあきた厚生連 平鹿総合病院 病棟実習 (1) 9日間行う。 (2) 患者を1名以上を受け持ち、看護を実践する。 (3) ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを実施し学びを共有する。 2) 地域医療連携室 (1) 半日間行う。 3) 入退院支援センター (1) 半日間行う。 4) 実習配置:実習配置表参照

臨地実習【成人・老年看護学実習Ⅳ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 慢性期・終末期にある成人期・老年期の対象を理解し対象に応じた看護が実践できる。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 成人期・老年期の発達課題と慢性期・終末期にある対象を理解できる。 2) 対象の健康に影響を及ぼす要因や生活習慣を理解できる。 3) 対象の健康問題を解決するための援助が実践できる。 4) 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 実習内容 (詳細については実習要綱の「成人・老年看護学実習Ⅳ」を参照) 実習施設:JAあきた厚生連 平鹿総合病院 JAあきた厚生連 大曲厚生医療センター 実習方法: 1) JAあきた厚生連 平鹿総合病院 病棟実習 (1) 9日間行う。 (2) 患者を1名以上を受け持ち、看護を実践する。 (3) ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを実施し学びを共有する。 2) JAあきた厚生連 大曲厚生医療センター 緩和ケア病棟 (1) 1日間行う。 3) 実習配置:実習配置表参照

臨地実習【成人・老年看護学実習Ⅴ】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第2学年/後期	単位数	1単位
履修の目的 地域や施設における高齢者の特徴を理解し、看護の役割を学ぶ。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 介護老人保健施設の役割と機能について理解できる。 2) 利用者の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 3) 日常生活の援助ができる。 4) 対象の健康の保持・増進・予防的な働きかけを理解し、生活機能の維持・拡大に向けた援助方法について理解できる。 5) 保健・医療・福祉の連携について理解できる。 実習内容(詳細については実習要綱の「成人看護学実習Ⅴ」を参照) 実習施設: 介護老人保健施設(4カ所) 実習方法: 各施設で4日間の実習を行う 実習配置: 実習配置表参照
--

臨地実習【小児看護学実習】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 小児各期にある対象を理解し、対象に応じた看護が実践できる。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 小児各期の特徴と正常な成長・発達及び健康上の問題を理解できる。 2) 小児各期の成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。 3) 小児各期の成長・発達段階、健康レベルに応じた看護が実践できる。 4) 健康障害が小児と母親及びその家族に及ぼす影響を理解し、適切な援助ができる。 5) 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 実習内容(詳細については実習要綱の「小児看護学実習」を参照) 実習施設: 平鹿総合病院 4はな病棟、小児科外来 明照保育園、横手マリア園、県立医療療育センター、横手市児童センター 実習方法: 1) 平鹿総合病院 小児科病棟実習 6日間 (1) 受け持ち患児を決め、看護を実践する。 (2) NICU の見学実習と小児科外来実習を行う。 (3) 実習終了日にまとめのカンファレンスを行う。 2) 保育園実習・横手市児童センター 3日間 (1) 保育園の日課に沿って、各クラス担当保育士の指導のもと保育に参加し実習する。 (2) 乳児・3歳未満児・3歳以上児の各クラスを一人の学生がローテーションする。 (3) 実習終了日にまとめのカンファレンスを行う。 (4) 児童センター見学実習(1時間)を行う。 3) 県立医療療育センター 1日間 (1) 重症心身障害児病棟、肢体不自由児病棟にわかれ、指導者の指導のもと実習する。 (2) 一日のまとめカンファレンスを行う。
--

臨地実習【母性看護学実習】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 女性のライフサイクルを理解し、各期における対象の健康維持増進のための看護が実践できる。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 妊娠、分娩、産褥の正常な経過を理解し、妊婦、産婦、褥婦の健康問題を査定し実施評価できる。 2) 新生児の生理を理解し、新生児の胎外生活適応への援助ができる。 3) 母性看護学実習を通して母性(父性)意識が発展できる。 4) 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 実習内容(詳細については実習要綱の「母性看護学実習」を参照) 実習施設:平鹿総合病院、NPO法人ここはぐ 実習方法: 1) 産科病棟実習 9日間 (1) 病棟に入院している妊婦、産婦、褥婦と新生児を対象に、母性看護における基本的なアセスメント方法や具体的な看護技術について実践する (2) 褥婦とその新生児を1例受け持ち、看護過程を展開する。 (3) 分娩見学を行い、学んだことや生命誕生の喜び、命の尊厳について学びを深める。 (4) 小集団保健指導(沐浴指導)を指導者と共に計画し、実践する。 (5) 実習中盤から後半にかけてケースカンファレンス、テーマカンファレンスを実施し学びを共有する。 (6) 実習最終日にまとめのカンファレンスを実施し、学びを共有する。 (7) 妊婦健康診査において妊婦を1例受け持ち、保健指導や診療補助を含む看護技術について学びを深める。 2) NPO法人ここはぐ 1日間 (1) 産前産後ケアハウスにおいて、母子にどのような支援が行われているか理解する。 (2) 妊娠期から育児期の女性が求める支援内容と、支援の実態を理解する。

臨地実習【精神看護学実習】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/通年	単位数	2単位
履修の目的 自己理解・対象理解を深め、対象との関係を発展させるとともに、心の健康回復・問題解決のための看護を学ぶ。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 精神医療における看護の役割や機能の特殊性が理解できる。 2) 精神的な問題を持つ人やその家族への理解を深めることができる。 3) 対象との関わりを通して自己理解を深め患者－看護師関係を発展させることができる。 4) 対象の特徴を踏まえたセルフケアへの看護が展開できる。
実習内容 (詳細については実習要綱の「精神看護学実習」を参照) 実習施設: 医療社会法人興生会 横手興生病院 東2階病棟及び西2階病棟、4階病棟 ケア&サポートはばたき(デイケア)、就労支援施設グリーン、精神障害者生活訓練施設 等 実習方法: 病棟実習は2～3名に分かれ2病棟を使用し実施する。 指導体制: ① 各病棟の臨床指導者が指導にあたる。担当教員は、かけ持ちで担当する。 ② 担当教員と臨床指導者が連携しながら受け持ち患者の選定並びに学生の学習環境を整え、指導にあたる。 ③ デイケア・社会復帰施設での実習に於いては、該当箇所の指導者やスタッフが指導にあたる。 ④ 4階病棟での実習は、見学実習を行う。

臨地実習【看護の統合と実践】

所属/担当教員	衛生看護学院 看護科 教員		
対象学年/開講時期	第3学年/後期	単位数	2単位
履修の目的 看護チームの一員として看護管理の視点を持ち、統合した看護実践能力を養うとともに、看護師としての自覚と責任を培う。			
授業の形式 臨地実習			
授業評価の基準等 出席状況および実習状況を評価表に基づいて総合的に評価する。			
教科書・参考図書 これまでの看護全般の講義で使用したテキストおよび資料			

【授業計画・内容】

実習目標 1) 病院および病棟の看護管理の実際を理解する。 2) 看護チームにおけるメンバーおよびリーダーの役割を理解する。 3) 複数の患者の健康状態に合わせた看護援助を、優先順位や時間管理を踏まえてチームと協力しながら安全に実施できる。 4) 夜間における患者の状況や看護師の対応を知る。 5) 病院の医療安全（感染対策）、地域医療連携の実際について理解できる。	
実習内容 （詳細については実習要綱の「看護の統合と実践」を参照）	
実習施設： 平鹿総合病院 各病棟	
実習方法：	
1) 管理実習	看護部 半日： 具体的な日程は実習計画表により行動する 病棟管理 半日： 可能であれば1日間、看護師長と行動を共にする
2) 病棟実習：	各病棟 計6日間
① リーダー看護師の見学実習	1日間
② チームメンバー看護師の見学実習	2日間
③ 複数受け持ち実習	3日間
④ 夜間（準夜帯見学）実習	1日間